

第八回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

作品集



# 一般の部 入賞・入選作品

本大会では、できる限り多くの方が入賞・入選できるように、  
原則として一人一賞とさせていただきます。

【一般の部・題詠「渦」】

最優秀賞 一首

産声が小さき内耳で渦を巻き稲妻としていま駆け抜ける

愛知県名古屋市

遠藤

雄介

優秀賞

二首

炎にも水にもみえる火焰土器われのうちなる原始渦巻く

東京都国立市

宮崎 洋子

これの世にふたり渦まきをりたるも夫はしづかに離れゆきたり

秋田県湯沢市

村田 磨理子

特別賞・伊藤一彦選

二首

勝ち独楽といへども模様の渦顕れてやがて倒るる時の来るべし

東京都町田市

谷川

治

瞳から落ちる雫を掬うため僕らの指の先にある渦

宮城県仙台市

駅前昼歌

特別賞・小島なお選

二首

樹の内に時は渦まき真日の鳴る方へと一生をかけて傾く

群馬県みなかみ町

山崎

杜人

田水引く小流れさへも渦まきて先をあらそふしぶきが光る

茨城県笠間市

飯田

初江

入選 二十首

八月は心ざわつく季節なり生きられなかった御霊の渦に

群馬県みなかみ町 小室 史

各国のコンピューターのコースそれ台風留まる自然の渦ぞ

愛知県蒲郡市 牧原 正枝

渦を生み花びらで包むペン先を眺めるし子は教師になりぬ

群馬県大泉町 太刀花 秒

渦巻のままにリボンが置かれたりお昼休みの体操部の床

愛知県名古屋市 清水 良郎

渦を巻くごとくに野茂は速球を投じてわれらが夢にこたえぬ

東京都世田谷区 野上 卓

力づくの愛の渦なり泡立てた生クリームの真白の軌跡

東京都足立区 鷺沼 あかね

谷底の小さな渦に潜みたる山女魚やまめにしばし釣糸たらす

徳島県阿南市 小畑 定弘

鳴門巻の渦の模様あざやかに昭和のラーメン屋君がゐた夏

愛知県知立市 星原 風堂

渦を巻く樺の大樹の切株に時がしづかに腰掛けてゐる

青森県八戸市 木立 徹

巻き撮った若き日の声このテープAB面の渦巻きを聴く

千葉県船橋市 川崎 富子

赤谷湖のボートをこぎて手に届く渦巻ほぐるる紅葉もみぢばすくふ

群馬県沼田市 田村 鶴江

ゼンマイの渦を見ること無きままに使いし目覚し時計はいずこ

群馬県川場村 桑原 謙一

渦巻をたどる視線の交差する二人で見つめるアンモナイト

山口県光市 松本 進

難産の牛舎に渦巻くうめき声トラクターにて仔牛引き出す

群馬県千代田町 大谷 光男

ふつふつと夫への怒り渦巻きて夕餉のコロッケ気づけば倍に

群馬県渋川市 木暮 由利子

日給の十分の一の座り湯の排水口の渦を見つめる

神奈川県横浜市 黒川 かおる

ハンバーグのたねが重たく渦巻いてずっと子どものきみの命日

東京都西東京市 小石岡 なつ海

沸々とみぞおち辺り熱くする怒りの渦で綿あめ作る

群馬県高崎市 イマミツ

もどりたる白布の父の傍で身をこぼし続ける渦巻き線香

群馬県高崎市 大塚 とみこ

洗濯機「うず潮」無くも星空と父母ありき北総の郷

東京都清瀬市 野原てい子

【一般の部・自由詠】

最優秀賞 一首

ゆふばえに駆けゆくひつじ雲の果て永遠はなくさよならさよなら

神奈川県横浜市

谷口 菜月

優秀賞 二首

海面にいずる旗魚と翻車魚を船に背鰭で見分け銛投ぐ

大阪府岸和田市  
向井 靖雄

亡き父がふとした拍子に現はるる今朝もきゅうりのぬか漬け食む時

群馬県渋川市  
木暮 由利子

特別賞・伊藤一彦選

二首

無期限の旅券のように晴れた日はあなたの手紙をひらきたくなる

東京都武蔵野市

北谷

雪

牧水を慕ひ夜道を九里十里今ならそれを「押し」といふらむ

群馬県みなかみ町

杉山 久美子

特別賞・小島なお選

二首

おしっこに「きれいな」という表現が加わり新たな家族のかたち

東京都中央区

佐藤 直大

朝起きて夜寝るだけをくり返し再婚をして夕焼けを見る

埼玉県春日部市

藤澤 由紀

子らと乗る縄の電車の始発駅ぞうすべり台終着駅も

愛知県岡崎市 中村 佐世子

雑踏にスーツが溶けて消えてゆく鯖の背中は海の迷彩

東京都西東京市 小石岡 なつ海

面取りがやさしく曳かれいち木はくが〈柱〉となりて今よこたはる

福岡県大牟田市 西山 博幸

ガレ―船ねむれる昏きうなそこの砂の動きを遠く聴きおり

東京都国立市 宮崎 洋子

放棄地をつたい下り来る猪に相手もされぬ過疎の里人

群馬県みなかみ町 番場 正夫

汗だくであのけちんぼの碁敵がいそいそと来る蒲焼を提げ

埼玉県所沢市 若山 巖

近づけば又飛び発ちて斑猫が母の在所へ吾を導く

大分県竹田市 佐藤 政俊

見守られうわさされつつ夏となる村での呼び名は「金剛山こごせ百合ゆり」なり

大阪府河内長野市 木村 嘉子

握りみる小銭に温み出でしころバスは終点「文明学館」

群馬県藤岡市 堀口 りつ子

孫のかく画面はみだす黒猫の目つきにひかれ十年掲ぐ

群馬県沼田市 田村 鶴江

野良猫に見捨てられいし蜥蜴の尾蠢き蜥蜴の振り向くを待つ

山口県光市 井ノ口 皓

陽のなかに花の小さき種播けば見えぬ時計の針動きだす

群馬県高崎市 井田 建

冬眠の獣のやうな匂ひしてきみの古びたモッズコートは

千葉県市川市 岡本 恵

アンブレラ種なること知るや知らずや空の輪郭辿る狗鷲

東京都文京区 遠藤 玲奈

月夜野の畠に杖つきりんご狩りムーンルージュ手の平に挽ぐ

群馬県高崎市 湯浅 茂子

全身を照らすひかりが降り注ぐ水の切れ目を見つめる金魚

埼玉県ふじみ野市 青林 采里

クレームに涙止まらぬ同僚は泣いてる時間も時給つけてと

東京都大田区 服部 明日檜

口内炎舌になぞりて物干しすカシワバアジサイ白が眩しい

茨城県鹿嶋市 大熊 佳世子

二回目のヘアドネーションしてきたと高校生は大人びたボブ

茨城県鹿嶋市 児矢野 雅恵

私わたくしと子犬の視線の交点が「出せ」と命じるオキシトシンを

群馬県高崎市 松本 由美子



# 高校生以下の部 入賞・入選作品

本大会では、できる限り多くの方が入賞・入選できるように、原則として一人一賞とさせていただきます。

【高校生以下の部・題詠「渦」】

最優秀賞 一首

戦渦の「渦」、戦禍の「禍」との違いより知るべきことはもつとあるはず

神奈川県立光陵高等学校

2年

佐野

晃太

優秀賞

自由題 二首

「大丈夫」の言葉の渦の中心に「じ」「や」「な」「い」がずっと回っているの

神奈川県立光陵高等学校

1年

照田

佳苗

答案の 丸やばつさえ 渦となり 未来の行方 ぼんやり見える

群馬県立利根実業高等学校

1年

織田

澤龍法

特別賞・伊藤一彦選

二首

君の目に私は渦巻いてたならばそのまま忘れて泡沫にして

神奈川県立光陵高等学校

1年

柳原 萌々子

体育祭小さな風が渦を巻く 皆の心も大渦を巻く

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校

2年

室橋 彩音

特別賞・小島なお選

二首

音楽が渦まいて耳に流れこみスケッチブックに影を描き初む

群馬県高崎商科大学附属高等学校

3年

植原 愛佳

海面に映る自分を覗いたらあつ、つてつぶやく余白なく渦

神奈川県立光陵高等学校

2年

猪野田 涼奈

あつあつに乗せたばかりの渦巻きの君を最初に食べよう。

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 須田 有朝

部活中 渦に見えてく 楽器から 音響いてく 金管ブラス

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 内田 湊

暑いから あおむけでねる うちの猫 無数に渦巻く 白い腹の毛

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 名地 咲結

風がふきいちょうの葉が落ち渦をまく片づけるのは誰だと思ふ

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 小林 優月

入ったら 抜けだし不可の 君の渦 私心は 溺れて行くまま

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 3年 高橋 美空

みなかみの社会の渦に緑あり 自然の豊かさどこにも負けず

群馬県太田市立宝泉中学校 3年 田辺 陸人

渦渦し海見に行くと渦がある心渦いた渦渦渦と

長野県塩尻市立広陵中学校 3年 保科 奏弥

共学に向けた校舎の工事音 教師の怒声音の渦かな

群馬県立沼田高等学校 2年 関 銀之助

食の秋ぜいたくをしてまつたけを食べてびっくり渦まくおなか

群馬県立利根実業高等学校 1年 綿貫 ひまり

もう一度 いったべたい おきなわの味 ブルーシールの うずまきアイス

群馬県立利根実業高等学校 2年 宮田 太陽

渦の中 生まれるワタシ 救う手は 波とともに 消える虚しさ

群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 莉枝

思い出すあの子の言葉渦のよう今も心をひつかきまわす

群馬県立利根実業高等学校 2年 齋藤 美來

沖縄の 今はきれいな 海の水 戦渦の大火 赤い荒磯

群馬県立利根実業高等学校 2年 大竹 芙由美

コロナ渦で 食べた分だけ 肥えていく 食べ物につみ ひとつもないよ

群馬県立利根実業高等学校 3年 峰川 柑奈

渦のように進路悩んだあのときが もうひとつきもすぎてしまった

群馬県立利根実業高等学校 3年 郷原 琴

渦巻きの方見ながらため息の祖父の気持ちは林檎を思う

群馬県利根沼田学校組合立利根商業高等学校 1年 吉永 玲斐

つむじみて 渦巻銀河 思い出す 階段きみの 一段上

群馬県利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 番馬 陽菜

渦潮を抱かない東京湾の春祖父の手の色の貝殻しずむ

群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 福島 環

オーデイルと愛を誓った君のこと湖畔には大きな渦一つ

群馬県高崎商科大学附属高等学校 3年 今井 沙羅

皇座山おみやまのウインドファームと競い合い天狗が今日も風の渦作る

山口大学教育学部附属光中学校 2年 横道 玄

【高校生以下の部・自由詠】

優秀賞

親知らずみたいなの遅い反抗期正しい場所に生えたい私

群馬県高崎商科大学附属高等学校

2年

福

島

環

優秀賞

ゆつくりと茶葉が開いた  
若すぎる紅茶のような僕の手のひら

神奈川県立光陵高等学校

2年

山本

未生

特別賞・伊藤一彦選

二首

「好き」という定義が統一されていくそれほどあなたを好きになつてく

神奈川県立光陵高等学校

3年

北原

大地

抜け殻を抜け出したくないとないている抜け出したけど少しさみしい

長野県塩尻市立広陵中学校

2年

中藤

隼佑

特別賞・小島なお選

二首

八月の終わりの空気を四枚の羽でプレスし飛ぶ赤とんぼ

山口大学教育学部附属光中学校

2年

横 道

玄

止まらない 立ち止まらない 青空は 走りつづける 不思議な空だ

群馬県太田市立宝泉中学校

2年

ベニテス  
ミア

あくがれは 二死で打席 逆転サヨナラ 満塁ホームラン

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 1年 大川 向陽

友達と 恋話をする 午前二時 好きな子よりも 好きな友達

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 飯野 颯介

すきとおる炭酸水を飲み干して 見上げて暗い夕暮れの空

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 阿部 壮真

とつぜんの流れしそうめんうれしすぎ急にミニトマト流すおばあちゃん

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 深津 由依子

夏の朝元気良く鳴くホトトギス夏限定の目覚まし時計

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 3年 小野 李桜

夏空に高速飛行のオニヤンマ太古の地球に思いをはせる

群馬県立沼田高等学校 2年 井上 咲耶

身体が大きくなるほど家族は縮む 時間はそれでも流れゆく

群馬県立沼田高等学校 2年 杉木 蒼月

寒い夜は熱々おでん食べようね母の言葉にあったまる我

群馬県立根実業高等学校 1年 小室 瑛乃助

借り物の消しゴム一つ忘れてた消すはずの文字どこにも無くて

群馬県立根実業高等学校 3年 鈴木 智裕

古くから 愛されている 藍の色 縹はなだに染めし この世のけがれ

群馬県立根実業高等学校 3年 関上 葉奈

父さんの「寝るよ」が私と妹の夜が始まる紐を引っ張る

神奈川県立光陵高等学校 1年 柳原 萌々子

ブランコの後ろのベンチの右側で歳を取っても一人で僕は

神奈川県立光陵高等学校 1年 中西 董

眼球が動くスズキも生物で実際鈴木とそんな変わらん

神奈川県立光陵高等学校 1年 藤井 綾音

常に保護される立場でいたいので来世は奈良の鹿になります

神奈川県立光陵高等学校 1年 太田 実来

オルガンが指をつたって染み込んでドレミファソラシどうかこのまま

神奈川県立光陵高等学校 1年 森岡 千尋

思い出に蓋をするほど煮詰まって青い空より青くなる日々

神奈川県立光陵高等学校 1年 照田 佳苗

この夏の後片付けをしていると収まりきららない砂が出てくる

神奈川県立光陵高等学校 2年 佐野 晃太

「会いたい」がその道にも落ちている 集めるように歩けば大人

神奈川県立光陵高等学校 2年 猪野田 涼奈

卒業の桜と対比するような教室籠もる青い残り火

神奈川県立光陵高等学校 2年 西村 祥太郎

いつもより暗い教室搾られたあとのレモンのような空ろで

群馬県高崎商科大学附属高等学校 3年 高橋 健太郎

# 入賞作品講評

## ◆ 選者紹介

伊藤 一彦(いとう かずひこ)



昭和十八年(1943)宮崎県生まれ。「心の花」選者。読売文学賞、  
迢空賞、斎藤茂吉短歌文学賞などを受賞。現在、牧水の生誕地宮崎県日  
向市の若山牧水記念文学館館長、宮崎県立図書館名誉館長、宮崎県立看  
護大学客員教授。歌集に『海号の歌』、『微笑の歌』、『月の夜声』、『光の  
庭』、『待ち時間』などのほか、『若山牧水―その親和力を読む』、『牧水  
の心を旅する』、『いざ行かむ、まだ見ぬ山へ』、『歌が照らす』などがある。

小島 なお(こじま なお)



昭和六十一年(1986)東京生まれ。歌人である母小島ゆかりの手  
伝いをしていうちに短歌に興味を持ち、青山学院高等部在学中の  
2004年に最年少で角川短歌賞受賞。2016・2020年度「NH  
K短歌」選者。コスモス短歌会所属。同人誌「cocoon」編集委員。その他、  
現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞受賞。歌集に『乱反射』、『サリンジャー  
は死んでしまった』、『展開図』などがある。

一般の部・題詠

最優秀賞

産声が小さき内耳で渦を巻き稲妻としていま駆け抜ける

愛知県名古屋市長 遠藤 雄介

この世に産まれ落ちた声の稲妻。鮮烈で清らかな光の轟きが、朦朧とした耳の奥に届く。その瞬間、身体中を貫かれるように私は母親という存在になったのだと気づく。

優秀賞

炎にも水にもみえる火焰土器われのうちなる原始渦巻く

東京都国立市 宮崎 洋子

縄文時代中期に作られた火焰土器を「炎」だけでなく「水」にもみえる自分の見方を示したあと、下の句で感動の源を見事に歌っている。題の「渦」が効果的に使われている。

優秀賞

これの世にふたり渦まきをりたるも夫はしづかに離れゆきたり

秋田県湯沢市 村田 磨理子

偶然に出会い、長い歳月を夫婦として互いの生涯を巻き込みながら時間の渦を巻いて生きてきた。そしていま、夫の人生の渦はふたたび離れ、遠くの世へ消えていった。

一般の部・題詠

特別賞・伊藤一彦選

勝ち独楽といへども模様の渦頭れてやがて倒るる時の来るべし

東京都町田市 谷川 治

題の「渦」を独楽の模様として巧みに使った独楽の歌として見事であり、それだけでも十分とも言えるが、人生詠としても深い味わいがある。結句の「べし」が印象に残る。

特別賞・伊藤一彦選

瞳から落ちる雫を掬うため僕らの指の先にある渦

宮城県仙台市 駅前 昼歌

涙を「瞳から落ちる雫」と巧みに言いかえている。その涙を掬うための指の先の「渦」とは実にユニークな捉え方だ。人は安心して泣いて涙を流していいという歌にも見える。

特別賞・小島なお選

樹の内には時は渦まき真日の鳴る方へと一生をかけて傾く

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

人間よりも遥かに大きな時間を内包する木の時間。年輪は渦を巻きながら何十年、何百年をかけてゆつくりと太陽に育まれる。「手のなる方へ」のように真日の鳴る方へ。

特別賞・小島なお選

田水引く小流れさへも渦まきて先をあらそふしぶきが光る

茨城県笠間市 飯田 初江

田んぼに水を引く初夏。水はいつせいに渦を巻きながら先へ先へ流れてゆく。きらめきを眩しみながら、ふと思惑が渦巻きながら先頭を争う人間の社会の様相に思いが至る。

一般の部・自由詠

最優秀賞

ゆふばえに駆けゆくひつじ雲の果て永遠はなくさよならさよなら

神奈川県横浜市 谷口 菜月

上の句の夕映えのひつじ雲の表現、「駆けゆく」が見事。空一面の雲の動きが目に見えるようだ。そして、下の句は「永遠」がないことに対する大肯定だろう。結句は明るい。

優秀賞

海面にいずる旗魚と翻車魚を船に背鰭で見分け銚投ぐ

大阪府岸和田市 向井 靖雄

漁業に関わり深い人の歌だろうか。カジキとマンボウ。私は知識がないが、似ているらしいカジキとマンボウの見分けのポイントは背鰭らしい。表現の具体が見事に生きた秀作だ。

優秀賞

亡き父がふとした拍子に現はるる今朝もきゆうりのぬか漬け食む時

群馬県渋川市 木暮 由利子

死者は懐かしく悼むときに現れるのではない。普段のなにげないひとときにさりげなく傍にいてくれるものなのかもしれない。パリパリするきゆうりの音を聞いたたりしながら。

一般の部・自由詠

特別賞・伊藤一彦選

無期限の旅券のように晴れた日はあなたの手紙をひらきたくなる

東京都武蔵野市 北谷 雪

きつと大切に保存している手紙なのだと思う。「無期限の旅券のように」の比喩が新鮮である。「あなた」との関りは無期限で終ることはないのだ。三句の「晴れた日は」もいい。

特別賞・伊藤一彦選

牧水を慕ひ夜道を九里十里今ならそれを「推し」といふらむ

群馬県みなかみ町 杉山 久美子

牧水が今の「みなかみ町」を訪れたとき、牧水先生が見えているということで、地元の若者たちは夜道を走って追いかけた。それを現代の「推し」の語で言ったところが面白い。

特別賞・小島なお選

おしっこに「きれいな」という表現が加わり新たな家族のかたち

東京都中央区 佐藤 直大

きれいなおしっこは健康な証拠。育児や介護では、おしっこや便の様子で家族は心配したりほっとしたりするもの。変わってゆく言葉は、変わらない家族の愛情ゆえ。

特別賞・小島なお選

朝起きて夜寝るだけをくり返し再婚をして夕焼けを見る

埼玉県春日部市 藤澤 由紀

朝に起きて、夜に眠る。結婚をして、離婚をして、ふたたび結婚をした。淡々と流れてゆく日々にも、ときどきのドラマティックな日にも、目の前には変わらない夕焼けがある。

高校生以下の部・題詠

最優秀賞

戦渦の「渦」、戦禍の「禍」との違いより知るべきことはもつとあるはず

神奈川県立光陵高等学校 佐野 晃太

戦渦は戦争に巻き込まれること、戦禍は戦争の被害を被ること。私たちはどのように遠い戦地に思いを馳せるべきなのだろう。見えているものの向こう側に目を凝らさなければ。

優秀賞

「大丈夫」の言葉の渦の中心に「じ」「や」「な」「い」がずっと回っているの

神奈川県立光陵高等学校 照田 佳苗

高校生の歌に感動することの多い今、この一首にも深く感動した。自信と不安の交錯する青春を具体的に歌って奥が深い。題の「渦」の生かし方も申し分ない。結びの「の」も。

優秀賞

答案の 丸やばつさえ 渦となり 未来の行方 ぼんやり見える

群馬県立利根実業高等学校 織田澤 龍法

答案用紙の正解、不正解。こんなにささやかな○や×の、毎日のひとつひとつの選択の積み重ねが未来の自分を形作る。未来の自分はどんな選択の果てに立っている？

高校生以下の部・題詠

特別賞・伊藤一彦選

君の目に私は渦巻いてたならばそのまま忘れて泡沫にして

神奈川県立光陵高等学校 柳原 萌々子

上の句は他の作者でもあり得る表現かもしれない。しかし、下の句は目をみはる独特さと切なさだ。好きな人に自分を「泡沫にして」という深い求愛。「泡沫」は「渦」の縁語。

特別賞・伊藤一彦選

体育祭小さな風が渦を巻く 皆の心も大渦を巻く

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 室橋 彩音

体育祭のグラウンドに風が小さな渦巻をつくっている。その渦巻を見ながら、自分たち「皆の心」の渦はもっと「大渦」だと歌っているのが若々しい。

特別賞・小島なお選

音楽が渦まいて耳に流れこみスケッチブックに影を描き初む

群馬県高崎商科大学附属高校 植原 愛佳

耳から流れ込む音楽は脳を心地よく刺激し、イメージを押し広げてくれる。スケッチに陰影を付けたことで情景は奥行きを増す。小さなきっかけで物事は生き生きと動きだす。

特別賞・小島なお選

海面に映る自分を覗いたらあつ、つてつぶやく余白なく渦

神奈川県立光陵高等学校 猪野田 涼奈

海面に映った自分の顔はたちまち渦潮に吞まれてしまった。あつ、という声になる前の声とともに。息を呑む瞬間的な場面を、鮮やかな映像性と韻律で掴んでいる。

高校生以下の部・自由詠

優秀賞

親知らずみたいな遅い反抗期正しい場所に生えたい私

群馬県高崎商科大学附属高校 福島 環

反抗期は中学時代には顕著だが、作者は高校生になって反抗期を迎えたのだろうか。「親知らずみたいな」の比喻がすばらしい。そして、下の句はさすがにしっかりした高校生だ。

優秀賞

ゆつくりと茶葉が開いた 若すぎる紅茶のような僕の手のひら

神奈川県立光陵高等学校 山本 未生

湯のなかでゆつくりと開き、味や香りを放つ茶葉。けれど、握っていた手のひらをゆつくりと開いてもそこには何も無い。いつか僕の手は何かを掴み放つことができるのか。

高校生以下の部・自由詠

特別賞・伊藤一彦選

「好き」という定義が統一されていくそれほどあなたを好きになつてく 神奈川県立光陵高等学校 北原 大地

なるほどと思ひ感心した歌。初め相手に対する「好き」の思ひは自分でも捉えがたく混沌としていたが、今は「好き」の定義が統一されてはつきりしたと。真率な下の句がいい。

特別賞・伊藤一彦選

抜け殻を抜け出したいとないている抜け出したけど少しさみしい 長野県塩尻市立広陵中学校 中藤 隼佑

一生懸命「抜け殻を抜け出したいとないている」声を聞きながら、その気持はよくわかるけど、抜け出すと「少しさみしい」ものだよと。依存と自立の葛藤を見事に歌っている。

特別賞・小島なお選

八月の終わりの空気を四枚の羽でプレスし飛ぶ赤とんぼ 山口大学教育学部附属光中学校 横道 玄

左右二枚ずつの透明な羽を動かして飛ぶ赤とんぼ。まだ暑さの残る晩夏のすこし重たい空気を押しながら、水平に進んでゆく。スローモーションのような緻密な描写。

特別賞・小島なお選

止まらない 立ち止まらない 青空は 走りつづける 不思議な空だ 群馬県太田市立宝泉中学校 ベニテス ミア

私が走ってるのではない。青空自体が走ってるのだ。一マス空け、二箇所切れ。まるで韻律も疾走するよう。駆け抜けてゆく青空の肉体を見上げるたびに励まされる。

一般の部【題詠「渦」】作品集

186人 412首

投稿順に掲載

太字作品は入賞・入選

- 1 渦を巻く海の流れや心には我が人生の渦を巻きたり  
三重県亀山市 岩谷 隆司
- 2 小川には渦まき流る笹舟の小さき舟を一呑にのむ  
三重県亀山市 岩谷 隆司
- 3 渦を巻くごとくに野茂は速球を投じてわれらが夢にこたえぬ  
東京都世田谷区 野上 卓
- 4 川底に小さき石の渦を巻き万年をへて甌穴となり  
東京都世田谷区 野上 卓
- 5 チャンバーを静かに渦巻き血が躍る隔日透析その日まで生き  
北海道札幌市 鎌田 誠
- 6 世界中指導者変る渦巻期飢えて戦火の子らが見ている  
北海道札幌市 鎌田 誠
- 7 渦を巻く利根川を泳ぎて渡る子がわが羨望の英雄なりき  
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 8 竜巻の曾孫なるらしものを干す庭につむじのはつか渦巻く  
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 9 洗剤の渦巻くさまを見るゆとりけふ梅雨明けの洗濯ひより  
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 10 わだかまるこころの渦のゆゑ知らず見上げる空に白き雲浮く  
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 11 利根川の激流岩を削りつつ大渦巻きて夢乗せ下る  
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 12 絶え間なく流れ下りし利根の水大岩淵で渦を巻きおり  
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 13 一滴の岳より出ずる清水にて大河となりつ渦巻きて行く  
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 14 ゲリラ雨で里を破壊し洪水は渦巻く中で民家呑み込む  
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 15 我八十路人生の渦いくたびも悲喜こもごもを子、孫に伝へん  
群馬県みなかみ町 笹木 洋子
- 16 雨蛙ひと声鳴けば次つぎと蛙の声は渦となりゆく  
長野県箕輪町 市川 光男
- 17 この夏もマスクの渦に巻き込まれ汗をかきかき街中を行く  
長野県箕輪町 市川 光男
- 18 カレンダーに次はハレの日と君が書く雲が渦巻く長梅雨が続く  
宮崎県宮崎市 荒尾 洋一
- 19 あのころのときめきを抱きくぐる門持ち帰れない青春の渦  
宮崎県宮崎市 荒尾 洋一
- 20 我れ無縁 藤井名人 その境地 渦巻く手順 覗きたいけど  
大阪府大阪市 後藤 憲之
- 21 旅一夜 鳴門渦見て 悩み消ゆ 深考無駄と さらり逆巻く  
大阪府大阪市 後藤 憲之
- 22 麒麟麦酒空き瓶の山を黒南風がピツコロコロ渦巻きて去る  
茨城県つくば市 松田 早苗
- 23 渦状紋・二重指紋の焼印の屍蠟のせなか 花腐る昼  
茨城県つくば市 松田 早苗
- 24 吾はまる あまりに深き 恋の渦 若かりし頃 おぼれし想い  
千葉県千葉市 うめさわ かよこ
- 25 恋敵 出会いし人よ うれいあり きれいに見える 渦中の人よ  
千葉県千葉市 うめさわ かよこ
- 26 力づくの愛の渦なり泡立てた生クリームの真白の軌跡  
東京都足立区 鷺沼 あかね

- 27 栓ぬけばバスタブ渦が運び去る今日の疲れと負の感情を  
東京都足立区 鷺沼 あかね
- 28 渦を巻く天の川銀河に一粒の水の惑星青き地球よ  
群馬県沼田市 内山 高重
- 29 ドミソゴへ万雷の拍手鳴り止まず感動渦巻くカーテンコール  
群馬県沼田市 内山 高重
- 30 北六<sup>きたろく</sup>番丁の角を曲がって帰らざる我らが昭和、辻に渦巻く  
宮城県仙台市 角田 正雄
- 31 渦を巻き音なく燃えて消えゆきしあの夏の日の蚊取線香  
宮城県仙台市 角田 正雄
- 32 濁流が渦巻く川の鉄橋の点検をする始発を前に  
埼玉県所沢市 若山 巖
- 33 外孫と渦巻き蚊とりを腰に下げカブト虫など探す林に  
埼玉県所沢市 若山 巖
- 34 大橋にバスの速度を落とせりて鳴戸の渦潮運転手は見す  
大分県竹田市 佐藤 政俊
- 35 堀に散り渦状に寄りて集まれるそこより桜花は帯状に流る  
大分県竹田市 佐藤 政俊
- 36 もやもやは渦となりしをもやもやと余生定めぬスモークツリー  
岐阜県中津川市 吉田 順代
- 37 夕間暮れ筍茹でる煙突ゆ火の粉は渦のやうに広がる  
岐阜県中津川市 吉田 順代
- 38 麻痺渦中右手<sup>めで</sup>の字を書くりハビリの糝に詠みたし慈しむ短歌<sup>うた</sup>  
群馬県伊勢崎市 野口 弘
- 39 果てしなく時空を超える空間に青く渦巻くアンドロメダ座  
群馬県伊勢崎市 野口 弘
- 40 神々し東の空に白光るダヴィデの渦の如き叢雲  
兵庫県宝塚市 小竹 哲
- 41 冷静なあの子がグルーブ渦の中途端にパープル色が変わった  
群馬県高崎市 齋藤 宏子
- 42 渦まひて木の葉円筒状になる確かに見えた木々の妖精  
群馬県高崎市 齋藤 宏子
- 43 渦巻いた奈落の底へ落ちる夢逆夢なるや我は元氣ぞ  
群馬県高崎市 齋藤 宏子
- 44 中津川のすがしき流れも大雨に渦巻き猛りくるいてくだる  
岐阜県中津川市 古井 富貴子
- 45 谷底の小さな渦に潜みたる山女<sup>やまめ</sup>魚<sup>め</sup>にしぼし釣糸たらず  
徳島県阿南市 小畑 定弘
- 46 小渦巻く沢の淀みに口つける山林労務の汗噴きながら  
徳島県阿南市 小畑 定弘
- 47 天気図の台風の渦まだ南あすはあなたの愛に巻かれる  
愛知県知立市 星原 風堂
- 48 鳴門巻の渦の模様あざやかに昭和のラーメン屋君がみた夏  
愛知県知立市 星原 風堂
- 49 渦を巻く螺旋階段駆け足で上って一人顔を顰めた  
岡山県倉敷市 堀 将大
- 50 抽斗の風鈴はまだ去年しか知らない渦中のわたしも知らない  
岡山県倉敷市 堀 将大
- 51 世界中が戦争の渦に巻かれそうまた生き地獄がくるのだからか  
東京都東村山市 浦壁 あけみ
- 52 ネジが切れ君はぐるぐる渦をなし遠く去りゆく恋の終りは  
東京都東村山市 浦壁 あけみ

- 53 満開の桜に一じんの風吹きて花は街路に渦となりゆく  
広島県福山市 杉之原 壽美
- 54 学舎の黒き扉が開くたび花渦巻きて回廊に落つ  
群馬県みなかみ町 奈 良
- 55 わが涙落つならば待て掻き混ぜしモカにミルクの渦消ゆるまで  
群馬県みなかみ町 奈 良
- 56 みなさんを笑いの渦に巻き込んで一番楽しくなるのは私  
群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 57 君の描くブタはいつでも物憂げに吹き出しの中渦巻いている  
群馬県沼田市 岡本 有未
- 58 パリオリで日本の選手渦の中金の瞬間超気持ちいい  
群馬県みなかみ町 篠原 忠
- 59 浴槽に浸かりくるくる指まわす渦ができたら私の勝ちね  
群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- 60 渦見えるそう聞く君にハツとする横顔みてて海は見えてない  
群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 61 (巻き込んで異常と思うこの暑さ) 一過に期待台風の渦  
群馬県昭和村 加藤 南風
- 62 美しい人魚に注意渦の中連れて行かれる騙されなないで  
群馬県みなかみ町 小林 はつ江
- 63 渦巻きをバケツの中で作ってる汗だくの子はパンツも履かず  
群馬県みなかみ町 本多 寿美枝
- 64 渦巻き煙類に畳痕祖母が扇いだ風と微睡む  
群馬県片品村 金子 美由紀
- 65 渦巻きのかまぼこ食べて紅白のうどんのおともそばのおとも  
群馬県みなかみ町 深代 里子
- 66 栓を抜き排水口に吸われてく時計回りとは逆向きの渦  
群馬県みなかみ町 大山 智也
- 67 八月は心ざわつく季節なり生きられなかった御霊の渦に  
群馬県みなかみ町 小室 史
- 68 炎天下頭の中が渦巻いて日陰に避難草に朝露  
群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子
- 69 黒雲の立ち込める空低くなり渦巻く不安に潰されそう  
群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ
- 70 8年も経って気づいた君の髪さかまく渦は二つあること  
大阪府堺市 多々納 萌
- 71 昨日着た白いワンピースを手洗いし泡の渦見てため息をつく  
群馬県沼田市 小林 恵美子
- 72 あじさいに降る雨の日のしずけさよ清濁渦まく人の世よそに  
宮崎県宮崎市 熱田 民恵
- 73 大雨の渦まく川に飲まれ行くあまたのもくず今世のごとし  
宮崎県宮崎市 熱田 民恵
- 74 子を訪ね鳴門の渦潮見し日ありあれが夫との最後の遠出  
群馬県前橋市 松下 昭代
- 75 見どころの激しき渦をのぞきつつ見たさ恐さに夫の手求めき  
群馬県前橋市 松下 昭代
- 76 手洗ひ由機械に変はり渦巻けば少女は川へ別れを告げり  
京都府舞鶴市 新谷 洋子
- 77 熱風が渦巻くやうな村里の老婆のゴミは若者が出す  
京都府舞鶴市 新谷 洋子
- 78 水ヶ浦の祭ばやしは舟の上見果てぬ夢が今も渦巻く  
京都府舞鶴市 新谷 洋子

- 79 納骨を終へし故郷海青し夫おだやかに時の渦へと  
大阪府河内長野市 木村 嘉子
- 80 渦巻くは地球温暖化環境破壊その先には殺しあい  
群馬県安中市 福田 誠
- 81 渦を巻く悲しみの中喰ふ寝るは生きとし生けるものたちの性  
群馬県安中市 福田 誠
- 82 風呂の栓抜けば小さな渦できて今日の疲れが吸ひ込まれゆく  
群馬県みどり市 志田 貴志生
- 83 滝つぼの渦巻くところ岩魚棲み幼き漁師の夏の短し  
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 84 珈琲に落すミルクの渦やさし今日はブラックなどとは言はず  
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 85 身の裡を否定と肯定渦生せば三十一文字の舟へと掬ふ  
群馬県沼田市 巖山 恵子
- 86 黒に白グレイに焦げ茶オレンジと組み付く猫の渦巻団子  
茨城県東海村 風森 漣翠
- 87 宛先は天河下ル鳥宇宙西入ル渦状星雲腕区  
茨城県東海村 風森 漣翠
- 88 黒々と渦巻きをりしわが髪も疎らな白髪となりて久しき  
愛媛県松山市 宇和上 正
- 89 立場ゆるぎ貧乏くじを引かされつ未履習問題渦巻きし秋  
愛媛県松山市 宇和上 正
- 90 指先がSNSの渦ほどこき呑みこまれゆく異次元のなか  
群馬県藤岡市 堀口 りつ子
- 91 癖っ毛の吾子の頭頂カットするたびに渦巻く銀河発見  
群馬県藤岡市 堀口 りつ子
- 92 渦を巻く樵の大樹の切株に時がしづかに腰掛けてゐる  
青森県八戸市 木立 徹
- 93 洗濯機君と二人で覗き込み渦が生まれる瞬間を見た  
鹿児島県鹿児島市 佐藤 橙
- 94 人の渦流されるまま流されて乗った電車の方向が逆  
鹿児島県鹿児島市 佐藤 橙
- 95 大利根に渦巻く流れ登る鮎焔く命先へ先へと  
群馬県前橋市 小畑 吉克
- 96 風和む渦巻く瀬音利根の川柳の芽吹き恋を唄えり  
群馬県前橋市 小畑 吉克
- 97 人の世に楽しい渦がまわるよう出逢いし人と言葉を交わす  
千葉県船橋市 川崎 富子
- 98 巻き撮った若き日の声このテープA面面の渦巻きを聴く  
千葉県船橋市 川崎 富子
- 99 眼の前の消えては生るる大渦潮鳴門海峡摂理厳肅  
山形県鶴岡市 大沼 二三枝
- 100 船頭に命託すも大渦潮引き摺り込むぞと船に迫り来  
山形県鶴岡市 大沼 二三枝
- 101 各国のコンピューターのコースそれ台風留まる自然の渦ぞ  
愛知県蒲郡市 牧原 正枝
- 102 ぐるぐると端から食べる子も孫も「渦巻きパン」は蒲郡名物  
愛知県蒲郡市 牧原 正枝
- 103 渦雷にすつかり怯へてしまふなど いやにめざめて五月蠅い雌  
愛知県豊橋市 神谷 菜摘
- 104 名もしらぬ虫けらシャワーで押し流し 排水口に渦のつくれり  
愛知県豊橋市 神谷 菜摘

- 105 二歳の娘の 渦なすつむじ 撫でるままに 歌よ生まれよ 涙よ止まれ  
群馬県高崎市 河野 晶一
- 106 雨上がり 虹が走って 渦を巻き 中心点へ 鷺が翔びたつ  
群馬県高崎市 河野 晶一
- 107 電子とか吊り下げタイプは便利でもやはり夏には渦巻蚊取り  
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 108 渦まきの中にかくれてふんはりと甘やかな香のシナモンロール  
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 109 台風渦のなごりのちぎれ雲青き空へと吸ひ込まれゆく  
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 110 朝な朝なつぼみの渦はほどかれて紅きあさがほのびのびと咲く  
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 111 夢のなか光の渦に身を委ね我はたゆたふ思い出の海  
大阪府摂津市 高橋 好恵
- 112 渦巻の失敗と思ふわがつむじ何故にか二つまとまりのなく  
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 113 怖かりし大鳴戸橋の「渦の道」ガラスの足下すくみて覗く  
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 114 赤谷湖のボートをこぎて手に届く渦巻ほぐるる紅葉すくふ  
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 115 渦巻の線香腰にぶら下げて母の歌碑ふく蝉を聞きつつ  
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 116 還暦を過ぎて牧水読みたれば逆巻く渦は川下にあり  
千葉県柏市 佐藤 和裕
- 117 實盛の地謡と笛と鼓らの渦に吞まれて堕ちて眠りぬ  
千葉県柏市 佐藤 和裕
- 118 二番目は手の付けられぬ利かん坊確か頭に毛渦が二つ  
神奈川県厚木市 井上 勝朗
- 119 ぱらぱらと渦をまくごと経本を捲る導師の読経昂る  
神奈川県厚木市 井上 勝朗
- 120 目を回す者のいないよう渦巻きの殻負いマイマイゆっくり歩む  
山口県光市 井ノ口 皓
- 121 白き旗あげて鯛釣り舟の行く大島瀬戸の渦潮を避け  
山口県光市 井ノ口 皓
- 122 台風夜も飲みますつまみには好きな胡瓜の渦巻漬けで  
宮崎県日向市 黒木 直行
- 123 傘寿でも入ったいたけた真夜中にオリンピックの興奮の渦  
宮崎県日向市 黒木 直行
- 124 蛇口より渦まき溜るこの水を罹災地能登に届け遣りたし  
群馬県高山村 割田 良次
- 125 称賛の喚声うづまく会場にメダル輝やく勝者の笑顔  
群馬県高山村 割田 良次
- 126 大戦の戦渦免れ健やかに令和を生きる九十五歳  
群馬県高山村 割田 良次
- 127 指先で渦を巻きつ、トンボ捕る遠去りし日の幼き遊び  
群馬県高山村 割田 良次
- 128 はてしない渦状銀河の端っこの滴のような水の地球よ  
群馬県前橋市 中澤 ひろみ
- 129 俺のこと邪魔者扱いしておいていまさら渦中の人ってなんだよ  
群馬県前橋市 中澤 ひろみ
- 130 幼なの日着ていた浴衣のもようは渦巻に歩くと揺れた夜店の灯り  
香川県丸亀市 寒川 靖子

- 143 伊達巻はパクリと食べたりはしない愛おしみつつ渦の端より  
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 142 久し振り渋谷に降り立ち人の渦もまかれ道<sup>みち</sup>を失ふ  
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 141 渦描いて花びらつけてよくなりました努力のしるし百点満点  
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 140 寂聴尼世人の誤ちネタに説くいちいちもつとも笑いの渦へ  
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 139 くるくると渦を大小描きなぐり幼子顔上げ満面の笑み  
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 138 舞ひ積もる枝垂れ桜の花びらは渦巻きながら風にうつろふ  
群馬県藤岡市 神田 恵美子
- 137 とつぷりと湯舟に沈む我が巡り小さき渦のいくつも立ちぬ  
埼玉県本庄市 清塚 茅香子
- 136 散り敷ける桜の花片光らせて風は小さき渦となりたり  
埼玉県本庄市 清塚 茅香子
- 135 留守番の渦まきパンはすまし顔白いクリームが聞耳を立てる  
岐阜県飛騨市 江尻 恵子
- 134 渦をまき流れる水に乗せてやる尖る言葉と諦めの訳  
岐阜県飛騨市 江尻 恵子
- 133 花びらは渦巻く風に舞ひあがり火の粉の如し ひなげしの原  
群馬県高崎市 井田 建
- 132 岩陰に鈴蘭の花みつけたたり渦巻く銀河の青き星にて  
群馬県高崎市 井田 建
- 131 大渦は潮の流れの争いと母は話しし鳴門の思い出  
香川県丸亀市 寒川 靖子
- 144 「メエルシュトレームに吞まれて」不気味なる挿し絵今でも脳裏の隅に  
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 145 銀河系の渦のどこかの地球という星を探して そこにおります  
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 146 「モンsoonジャイアったあおれがことだ」と太平洋にデンと居座る  
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 147 渦を巻き排水溝に吞まれゆく春のをわはりの緋の花筏  
群馬県高崎市 井田 善啓
- 148 棕鳥の群れ夕空をうねりつつ黒く渦巻き竹叢に落つ  
群馬県高崎市 井田 善啓
- 149 濁流は渦まきながら一瞬に能登の人等のたつき吞みたり  
群馬県高崎市 井田 徳子
- 150 我が胸に小一のままに還り来る友は川底渦に逝きたり  
群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子
- 151 谷川岳に渦巻銀河のありつたけ包まれ至り真夏のひと夜  
群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子
- 152 秋海棠の群るる静けさ安らぎをおくりやりたし戦渦の荒れ地  
群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子
- 153 来し方を思へば大き渦の中背伸びしたるにぬけ出せぬまま  
群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子
- 154 勝れもの蚊取線香渦巻の夏の黄昏線香花火  
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 155 俺次だ右に巻く渦願いつつ餓鬼大将に差し出す頭<sup>まへ</sup>  
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 156 戦争の渦に巻れて父死して家も焼かれた母子三人  
群馬県みなかみ町 野澤 武

- 157 田水引く小流れさへも渦まきて先をあらそふしぶきが光る  
茨城県笠間市 飯田 初江
- 158 轟々と水泡渦巻く雪しろに谷川岳は双耳そばだつ  
東京都町田市 谷川 治
- 159 勝ち独楽といへども模様の渦顕れてやがて倒るる時の来るべし  
東京都町田市 谷川 治
- 160 ゼンマイの渦を見ること無きままに使いし目覚し時計ははずこ  
群馬県川場村 桑原 謙一
- 161 はっきりと目を持ち不気味に渦を巻く衛星画像の台風の雲  
群馬県川場村 桑原 謙一
- 162 渦巻きは君の熱さに傾いたマンゴー味のソフトクリーム  
群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 163 空中に呪文が浮かぶ鮮やかな渦見せつける体操リボン  
群馬県沼田市 岡本 有未
- 164 渦を立てぐるぐるんと洗っていく匂いは薔薇園和む純白  
群馬県みなかみ町 篠原 忠
- 165 渦巻きで思い付くのは伊達巻きとロールケーキとなるとかな  
群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- 166 火を灯し夏の煙の香りする渦巻きの向き左の蚊取り  
群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 167 苦しみの渦に逆らい行く吾子「かえってこい」の一言いえず  
群馬県昭和村 加藤 南風
- 168 消えていく悲しみ達は消えていく渦に巻かれて今が幸せ  
群馬県みなかみ町 小林 はつ江
- 169 赤城原渦巻き雲の置き土産広い裾野は綿雲散らばる  
群馬県みなかみ町 本多 寿美枝
- 170 おてんでんみんないたたく渦まきの左まきかな右巻きかもね  
群馬県みなかみ町 深代 里子
- 171 あの頃に聴いてた曲が流れてきて私の中に渦がうごめく  
群馬県みなかみ町 大山 智也
- 172 ウズウズを恋の渦に投げいれてワンピースの皺を伸ばしている  
群馬県みなかみ町 小室 史
- 173 雷と白い稲妻強い雨水が渦巻くフロントガラス  
群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子
- 174 栗づくしの生地とあんこに柚子香り土産にもらいし渦巻きタルト  
群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ
- 175 窓開けて夏の宵闇招き入る懊悩の渦真芯は静か  
大阪府堺市 多々納 萌
- 176 ただひとり渦巻く空を描いてた青の向こうに何が見えたの  
群馬県沼田市 小林 恵美子
- 177 本流へゆくり漕ぎ出す花筏ひとつ堰越へ渦に吞まるる  
大分県国東市 原 比呂子
- 178 渦潮の真只中に父母を思ひ巡らす一人の旅路  
大分県国東市 原 比呂子
- 179 岩くだき渦まき流る若き利根川<sup>ねが</sup>峨<sup>が</sup>の川瀬を響<sup>とよ</sup>みつゝ行く  
群馬県みなかみ町 石坂 作次
- 180 さわやかな諏訪の溪谷水澄みておおけつの渦かすかにまけり  
群馬県みなかみ町 石坂 作次
- 181 花筏渦まきながら流れゆく明日はいづこの淵につくやら  
群馬県みなかみ町 高橋 吟子
- 182 いつからか指紋の渦は消え失せぬ年をとるとはこういうことか  
群馬県みなかみ町 高橋 吟子

- 183 金鳥の蚊鳥線香一晩で灰となりたり渦巻のまま  
群馬県みなかみ町 高橋 吟子
- 184 彼の国の砲火渦巻く戦場の瓦礫の山に向日葵何時咲く  
群馬県沼田市 内山 路鳥
- 185 岩を噛み渦巻く早瀬に鮎おどり太公望の竿を撓らす  
群馬県沼田市 内山 路鳥
- 186 黒岩の流れ深まる岩底に渦にただよう紅葉のぞきぬ  
群馬県みなかみ町 久野 とし子
- 187 カラカラと渦巻く風の中に見る色とりどりの紅葉重さねり  
群馬県みなかみ町 久野 とし子
- 188 寺の軒ましろき砂に渦を巻く小さな虫のつのでし  
群馬県みなかみ町 久野 とし子
- 189 古い我のさみしき冬の朝めぎめ凜と咲きそむ花福草茸  
群馬県みなかみ町 久野 とし子
- 190 雪代に落ちて流る枯れ小枝清濁の渦巻かれ何処に  
群馬県みなかみ町 原澤 朝則
- 191 青海の鳴門大渦くらぶれば蕎麦腕に浮く紅白鳴門  
群馬県みなかみ町 原澤 朝則
- 192 諍いの渦中巻かれて及び腰落としどころは何処に在りや  
群馬県みなかみ町 原澤 朝則
- 193 絶間なき世界の戦渦終わり見ぬ人の道など勝る欲望  
群馬県みなかみ町 原澤 朝則
- 194 渦を巻く蚊取り線香まとはせて曾孫が遊ぶ線香花火  
群馬県みなかみ町 荒木 洋子
- 195 週一の隙間すきまをかいくぐり収集袋のプラゴミの渦  
群馬県みなかみ町 荒木 洋子
- 196 夕餉炊く煮物の火力勢ひて渦に巻かれし昆布大根  
群馬県みなかみ町 荒木 洋子
- 197 渦潮の観潮船に行く鳴門見頃よろしく迫力満点  
東京都杉並区 堀井 邦子
- 198 新月の大潮といふ観潮は轟音飛沫上げて渦巻く  
東京都杉並区 堀井 邦子
- 199 衆院選渦巻く街頭演説の翌日バンザイ数多重写る  
東京都杉並区 堀井 邦子
- 200 渦巻きの文様栄える骨董のグラス並びぬバリ界限に  
大阪府堺市 名川 由江
- 201 古代より室生に竜の潜むらし渦巻く川の水泡の奥に  
大阪府堺市 名川 由江
- 202 峠道落葉舞い散る母の里渦巻く風の尾根の一刻  
群馬県みなかみ町 林 好一
- 203 閉校の庭に枯れ葉の渦の舞い明日は木枯し一号也や  
群馬県みなかみ町 林 好一
- 204 世の中や大小戦火の渦にあり病める地球の哀れとぞ思う  
群馬県みなかみ町 林 好一
- 205 秋の虹映す湖畔の夕暮れに渦巻く湖水鳥の旅立ち  
群馬県みなかみ町 林 好一
- 206 台風の時渦巻く雲は南東へ急ぎていたり 稲穂出始む  
岡山県和気町 行正 健志
- 207 ぶったおれまなこ渦巻く漫画の子昭和過ぎし日の懐しき  
岡山県新見市 浅井 和枝
- 208 我武者羅の時にとび込み小半時幼は一輪車乗り熟したり  
愛知県岡崎市 中村 佐世子

- 219 幼わかより父母、祖母の愛の渦に 慈いづくしまれ守られて来し我  
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 220 幼き日 スイーツ好きの父の手みやげバウムクーヘンは 幸せの渦  
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 221 ハイヒールで人波ぬうよう早足で  
大都会の渦、泳ぎたり  
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 218 短歌、詠み 書、絵描いたり歌う事は そうした渦からのオアシスなり  
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 217 静かなる湖面に投石、20年もされ 妬ねたみの渦巻く隣人達をり  
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 216 生きるとは 妬ねたまれる事に耐える事 コロナより怖い隣人達の渦  
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 215 舞いおりた渦巻く水面の花びらはファイナル舞台を演じて去りぬ  
群馬県前橋市 梅澤 祐一
- 214 暗雲は世界に渦まき晴れるとふ予報もなしに幻冬に入る  
群馬県みなかみ町 中島 早苗
- 213 風呂の栓抜けば音立て渦まきて心の疲れ 流れ落ちゆけ  
群馬県みなかみ町 中島 早苗
- 212 てるてる坊主台風の渦押し止どめ 鹿児島快晴 気分爽快  
群馬県みなかみ町 中島 早苗
- 211 リサイタルの拍手は大きな渦となりフジコ・ヘミングのドレス揺れたり  
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 210 父逝きし戦場空の焼けしとうバンザイクリフの赤き渦波  
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 209 吾背にも渦巻く殻のあるならん苦楽運びて一世渡りつ  
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 222 人けなき利根源流の滝壺の渦に大魚の尾鰭の光る  
群馬県前橋市 武藤 洋一
- 223 逆転打放ちし罌上の少年に喝采の渦ウエーブに変はる  
群馬県前橋市 武藤 洋一
- 224 浴槽の残り湯流し終へしとき渦にゴボゴボ湯の噎る声  
群馬県前橋市 武藤 洋一
- 225 育める湾の入江の個々生簀の五千尾の鰻渦巻き泳ぐ  
大阪府岸和田市 向井 靖雄
- 226 雪解けの岩打つ波の激しきに渦巻く風に髪が乱る  
群馬県みなかみ町 石坂 喜美江
- 227 利根川の渦なし流る蒼き淵枯葉浮きみて雪近き知る  
群馬県みなかみ町 石坂 喜美江
- 228 ぶきみなりブーンと渦巻く重低音 深夜の侵入カメモシ一匹  
群馬県みなかみ町 原澤 君子
- 229 きみらしく風をつかめよ渦巻きてうづまきてのち鷹わたりゆく  
神奈川県横浜 谷口 菜月
- 230 **これの世にふたり渦まきをりたるも夫はしづかに離れゆきたり**  
秋田県湯沢市 村田 磨理子
- 231 渦づくり豪雨を流れし皆瀬川水底の石を透して穏し  
秋田県湯沢市 村田 磨理子
- 232 時折に大きな出来事現れる 渦中の人物登場す  
大阪府大阪市 みなかみ之川
- 233 時折に落ち葉塊渦を巻く 自然現象の姿なり  
大阪府大阪市 みなかみ之川
- 234 時折にドリームキャスト遊び尽くす 我渦巻きロゴマーク気に入る  
大阪府大阪市 みなかみ之川

- 235 徳島の代表都市鳴門市よ 鳴門海峡の渦美し  
大阪府大阪市 みなかみ之川
- 236 涙さへ銀河の果てに消すやうな自動洗浄トイレの渦よ  
千葉県市川市 岡本 恵
- 237 世界一やさしい渦に触れてゐる父譲りだと笑ふ癖つ毛  
千葉県市川市 岡本 恵
- 238 渦潮の際まで船を操りて確と漁師は鯛を引き揚ぐ  
東京都文京区 遠藤 玲奈
- 239 「巻いとるよ」助手席にてドライバーに渦の報告大鳴門橋  
東京都文京区 遠藤 玲奈
- 240 何時までも眠れぬ夜は青い月見上げて心渦巻く辛さ  
群馬県高崎市 木内 寿子
- 241 大勢の人行き来都会にて無性に感ず孤独の渦を  
群馬県高崎市 木内 寿子
- 242 渦巻のままにリボンが置かれたりお昼休みの体操部の床  
愛知県名古屋市長 清水 良郎
- 243 合宿の男子の部屋に女子が来て一人が十首、兼題は「渦」  
愛知県名古屋市長 清水 良郎
- 244 指先の渦巻きそれはオンリーワン  
よく働いてしわが加わる  
群馬県みなかみ町 ベネット 昭子
- 245 人生の制御できない渦の中見えない手綱投げてもらった  
群馬県みなかみ町 ベネット 昭子
- 246 ウクライナ侵攻のロシアが火種か戦の渦が彼方此方に発つ  
群馬県みなかみ町 林 恵美子
- 247 渦巻きはコーヒーカップの中でよし香り豊けく笑くばも見する  
群馬県みなかみ町 林 恵美子
- 248 川遊び足引きずられ渦の中カップの仕業と話さず耐えた  
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 249 庭の落葉掃き寄せ置けば青嵐渦となりて舞い上り散る  
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 250 万葉の歌に読まれし鳴門渦娘の車にて亡き夫も居て  
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 251 車イス押しつ涙した十年前万殊沙華 今日も渦に似て燃ゆ  
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 252 渦巻きの施毛愛らし初孫の蒼きまなこに映る冬空  
大阪府寝屋川市 森重 深こえ
- 253 渦を巻く私の感情慄きぬ病の巢のその通り道  
大阪府寝屋川市 森重 深こえ
- 254 渦巻をたどる視線の交差する二人で見つめるアンモナイト  
山口県光市 松本 進
- 255 学校から解き放たれて帰る子ら渦巻き回るつむじ風のごと  
山口県光市 松本 進
- 256 連なりし個室作りし渦巻きにアンモナイトは何を隠しぬ  
千葉県柏市 まれ よ
- 257 云ひ返すことが出来ずに流れゆく小さき音立て渦巻きながら  
千葉県柏市 まれ よ
- 258 子の舌はゴジラのように舐め壊す渦の綺麗なソフトクリーム  
茨城県ひたちなか市坂上 くれも
- 259 花びらが風と一緒に入り込み電車の床にさくら渦巻く  
茨城県ひたちなか市坂上 くれも
- 260 汚水なる渦はゴボリとのまれたり言わず済むこと幾度言いしか  
群馬県渋川市 忽滑谷 三枝子

- 273 アンドロメダ銀河みたいにくつもの渦を抱えて眠れない夜  
群馬県沼田市 岡本 有未
- 272 暗闇の渦に巻かれている時は力を抜けば緩む日も来る  
群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 271 遊覧で鳴門の渦に揺さ振られ力強さに足を踏んばる  
群馬県みなかみ町 大川 美知子
- 270 縁側で星空眺め風の音渦を無くした蚊取線香  
群馬県みなかみ町 大川 美知子
- 269 濁流が渦巻きて家屋押し流す能登の町漆の器何処で眠る  
群馬県みなかみ町 関 和子
- 268 渋谷には人が渦巻きハロウインの行方てんでん物見高しか  
群馬県みなかみ町 関 和子
- 267 渦巻ける蚊取り線香を腰に下げ草を抜き居る夕映えの中  
神奈川県愛川町 富田 茂子
- 266 瀬に滾る谷川岳の雪解水小さき渦の生れつ消えつつ  
神奈川県愛川町 富田 茂子
- 265 左義長の焔は渦巻き漆黒の空へと昇る龍の如しも  
神奈川県川崎市 藤原 礼子
- 264 悠大な自然の恵みの雑煮椀に 鳴門の渦巻福を添えたり  
神奈川県川崎市 藤原 礼子
- 263 金婚の記念の旅の大鳴門橋渦潮の海はるけく広し  
神奈川県飯綱町 井澤 榮一
- 262 空し渦去満蒙開拓十四・叔父守りの高き肩車忘れず  
群馬県渋川市 忽滑谷 三枝子
- 261 ラベンダーゆれて父子に同じ渦玉原高原下りのリフト  
群馬県渋川市 忽滑谷 三枝子
- 274 乾電池渦の中へと飛び込んだ光の世界ボタン押すだけ  
群馬県みなかみ町 篠原 忠
- 275 渦を巻く巨大な雲のかたまりを地球の外から見てるひまわり  
群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- 276 光の渦巻き込まれていく追いかけて二十三年推ししか見えず  
群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 277 鳴門鯛身が締まる訳を知ったよ大都会で人渦巻かれて  
群馬県昭和村 加藤 南風
- 278 川遊び夢中になって足取られ夢が覚めても渦巻く不安  
群馬県みなかみ町 小林 はつ江
- 279 秋映えの吹割の滝歩くけど渦巻く水に吸い込まれそう  
群馬県みなかみ町 本多 寿美枝
- 280 午後からは風が強くなる予報です天気図の渦が近づいている  
群馬県みなかみ町 大山 智也
- 281 渦の中いま俺はいる揉みくちやに流され溶けてH<sub>2</sub>Oになる  
群馬県みなかみ町 小室 史
- 282 久々に集ったみんな10代の多感の渦を乗り越えた友  
群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子
- 283 渦描きココアを溶かす闇と化すミルクの中に漂う心  
大阪府堺市 多々納 萌
- 284 空蟬に渦巻く黒と白の様そんな自分も密かに許して  
群馬県沼田市 小林 恵美子
- 285 樹の内には時は渦まき真日の鳴る方へと一生をかけて傾く  
群馬県みなかみ町 山崎 杜人
- 286 銀針をまわせば時は渦巻いて（今）に静まる時計の水面  
群馬県みなかみ町 山崎 杜人

- 287 日輪の崩るる白昼<sup>ひる</sup>を渦巻きて狗鷺は空に風を運べり  
群馬県みなかみ町 山崎 杜人
- 288 親水園に虚像の空はゆらぎ君の踝にふれて淡く渦まく  
群馬県みなかみ町 山崎 杜人
- 289 日々渦の中で溺れても救われる橙の空に黒い山影  
群馬県片品村 金子 美由紀
- 290 難産の牛舎に渦巻くうめき声トラクターにて仔牛引き出す  
群馬県千代田町 大谷 光男
- 291 猫と人昼寝むさぼる一軒家渦巻いている夏の無防備  
群馬県千代田町 大谷 光男
- 292 人の渦に揉まれて強くなっていく小さな渦からさらに大きな  
群馬県千代田町 大谷 徳湖
- 293 台風の渦多くなり甚大な被害が異常気象を止めて  
群馬県千代田町 大谷 徳湖
- 294 底のなき渦に巻かれて激動の時を過ごせし父母の青春  
群馬県みなかみ町 山口 雅子
- 295 光る君十二単の胸の奥渦巻く思い我も我もと  
群馬県みなかみ町 細谷 龍男
- 296 風呂掃除排水口の渦左り北半球の自然の力  
群馬県みなかみ町 細谷 龍男
- 297 耳障り眠り妨ぐモスキート羽音かき消す緑渦巻き  
群馬県みなかみ町 細谷 龍男
- 298 選筆終え風向き変わり渦中人また風変わり渦中人  
群馬県みなかみ町 細谷 龍男
- 299 台風の渦が三つも北上す今日また小さき離島出られず  
岐阜県郡上市 海神 瑠珂
- 300 大いなる銀河の渦の中のわれいと小さくともいざや光らん  
岐阜県郡上市 海神 瑠珂
- 301 夕されば棕鳥の大群渦となり鎮守の杜へ吸ひ込まれゆく  
愛知県岡崎市 西村 愛美
- 302 風呂水の落ちゆくときの渦の音昨夜の涙を飲み込み消ゆる  
愛知県岡崎市 西村 愛美
- 303 胸の中広がる渦が大きくなり拒絶できぬ吾距離をおきたる  
群馬県伊勢崎市 齋藤 洋子
- 304 クジラ岩したひきづりこまれた渦ありと川面を見つむ米寿の父は  
群馬県伊勢崎市 齋藤 洋子
- 305 大阪の戦渦に追はれ疎開して島根に抱く愛としあはせ  
島根県出雲市 金山 黎子
- 306 川沿ひに伸びし葦の穂風に揺れ風強ければ渦巻くやうに  
島根県出雲市 金山 黎子
- 307 舞ふ如くトリプルアクセル渦の中薄紙剝ぐ如一瞬に消ゆ  
群馬県高崎市 湯浅 茂子
- 308 雨は止み地面にすがる渦桜かすかな息は甘さを放つ  
埼玉県春日部市 藤澤 由紀
- 309 真夏日のサウナのようなご不浄の高温便座に謎は渦巻く  
埼玉県春日部市 藤澤 由紀
- 310 憎しみと怒りと歓喜の渦巻きの遠き淀みに七十路を病む  
群馬県安中市 新井 八重子
- 311 竜巻をとらへし動画渦巻きて全てを巻きあげ破壊してゆく  
宮城県宮崎市 中村 葉月
- 312 八十年過ぎて今なほ地中には戦渦の残骸不発弾あり  
宮城県宮崎市 中村 葉月

- 313 エアコンの回転音めく渦巻きはわたしのなかの耳鳴りだった  
福岡県北九州市 水の眠り
- 314 透明と翡翠の支流が渦になり唯一の清流 四万十をなす  
福岡県北九州市 水の眠り
- 315 真言のこゑは渦なし護摩焚きの炎に消ゆくわが不安感  
熊本県熊本市 下城 公秀
- 316 潮あらしき海石の陰の大サザエ渦巻く殻に突起鎧へり  
熊本県熊本市 下城 公秀
- 317 夢も見でわづらい生くも金は減る天井にある蜘蛛の巣の渦  
埼玉県ふじみ野市 雨雨 雨汰
- 318 深夜二時、洗濯物は渦を巻きわれに奏でるゴリキーのうた  
埼玉県ふじみ野市 雨雨 雨汰
- 319 何せよと生を享けしと尋ね続け未だも渦巻くわが「生き」の問ひ  
石川県金沢市 橋本 枝折
- 320 渦巻きの片隣かすかに残る指八十路の記憶のさますすがに  
石川県金沢市 橋本 枝折
- 321 あふぎみる銀河は渦巻く星の群れ吾もむかふか移住の星へ  
広島県広島市 小野 系子
- 322 渋谷駅の「明日の神話」は見下ろせり八十年経ぬ渦まける世を  
広島県広島市 小野 系子
- 323 異国語がうしろに前に渦を巻く信号待ちのわれの巡りに  
東京都豊島区 西澤 京子
- 324 洗濯機の泡立つ渦を見つめつつ赤子の泣き声だんだんやみぬ  
東京都豊島区 西澤 京子
- 325 ふつつつと夫への怒り渦巻きて夕餼のコロッケ気づけば倍に  
群馬県渋川市 木暮 由利子
- 326 夕つ方渦巻きの端に火をつける夏の決めごと蚊取り線香  
群馬県渋川市 木暮 由利子
- 327 愛憎の炎の渦を濾過してもまださめやらぬこの身恨めし  
千葉県柏市 昴 仙
- 328 幼な子のつむじの渦を眺めては誰に似たとか朗らかな話  
宮城県山元町 太田 君江
- 329 洗濯の渦は昨日を絡め取るどろんこカレー 汗 汗 涙  
宮城県山元町 太田 君江
- 330 嫌なこと全部流してほしいから もう一度だけウォッシュレットの渦  
長野県安曇野市 茅野 勇史
- 331 渦巻きのペロペロキャンディー舐めさせて祭り会場あとにし歩く  
長野県安曇野市 茅野 勇史
- 332 渦を巻く雲がぼくらに手を伸ばすやりたいことをやってみるんだ  
埼玉県ふじみ野市 青林 采里
- 333 早朝の東京駅につぎつぎと渦巻くようにわたしも並ぶ  
埼玉県ふじみ野市 青林 采里
- 334 炎にも水にもみえる火焔土器われのうちなる原始渦巻く  
東京都国立市 宮崎 洋子
- 335 幻影の渦にのまれて落ちてゆく 術前麻酔いまし効き初む  
東京都国立市 宮崎 洋子
- 336 ラーメンの油面に浮いた渦巻きを避けて混ざれば海峡できる  
東京都大田区 服部 明日檜
- 337 渦巻いた蔓は金網通り越し迷子の猫を慰め遊ぶ  
東京都大田区 服部 明日檜
- 338 草わらでバツタ追っかけ遊んだ日 幸わせの渦に子等と戻りたし  
大阪府柏原市 田倉 あけみ

- 351 浴槽の栓抜き居れば小さき渦家族の疲れ抜き去る如  
群馬県みなかみ町 杉木 輝夫
- 350 瀬戸橋の蒼い大海見下ろせば 白き泡蹴り渦は動けり  
群馬県みなかみ町 諸 田 弘
- 349 沢釣りの山中の滝竿させば渦の間に間は浮は踊らん  
群馬県みなかみ町 諸 田 弘
- 348 秋の空 家電製品購入し トリセツ読むが 頭渦巻く  
群馬県みなかみ町 原 澤 廣子
- 347 年重ね 指紋の渦が 薄くなり 唾をつけたい 紙めくる時  
群馬県みなかみ町 原 澤 廣子
- 346 大人とはどうなることか見えぬまま今でも欲しき渦巻きの飴  
群馬県大泉町 太 刀 花 秒
- 345 渦を生み花びらで包むペン先を眺めし子は教師になりぬ  
群馬県大泉町 太 刀 花 秒
- 344 小さき渦うまくつくれぬ児の口に竜巻きナポリタン昇りゆく  
群馬県大泉町 太 刀 花 秒
- 343 ゆびさきの渦を見合ひて笑みし父のいま盲目く眼やさしも  
群馬県大泉町 太 刀 花 秒
- 342 秋の渦春の大渦大胆に海外からも集まる笑顔  
徳島県阿南市 坂 東 典子
- 341 村人に見守られつつ溜池の栓が抜かれて水は渦なす  
福岡県大牟田市 西 山 博幸
- 340 二柱の線香の煙は網戸へと靡きながれて外で渦巻く  
福岡県大牟田市 西 山 博幸
- 339 宴会を笑いの渦に引き込むは 老人二人の歌う “麦畑”  
大阪府柏原市 田 倉 あけみ
- 352 幾つもの台風の渦並びたる十一月の異常気象図  
群馬県みなかみ町 杉 木 輝夫
- 353 敬老日孫のもてなすコーヒーや注ぐミルクにやわき渦浮く  
群馬県みなかみ町 澁 谷 典子
- 354 関門橋渦潮見事波しぶき孫より届く動画に歓声  
群馬県みなかみ町 澁 谷 典子
- 355 夕陽受け清らに流れる利根の川投ぐる小石に小さき渦うく  
群馬県みなかみ町 澁 谷 典子
- 356 大河なる光る君へも渦中にと筆文字見事文の美わし  
群馬県みなかみ町 澁 谷 典子
- 357 夏夕べ蚊とり線香渦巻を昇る煙と赤く点く火  
群馬県みなかみ町 原 澤 芳雄
- 358 天気図の渦巻状の等圧線台風発生進路気になる  
群馬県みなかみ町 原 澤 芳雄
- 359 観客の期待を渦に飲み込んでオルカは空へ身軀を放つ  
東京都武蔵野市 北 谷 雪
- 360 白味噌のやわらかな渦ほどかれて幸福は眩しさを忘れる  
東京都武蔵野市 北 谷 雪
- 361 おんなたちの一日の汚れ渦巻きて銭湯隅のわれに流れ来る  
山口県山陽小野田市 山 縣 満里子
- 362 パンフ見てうずうずとするバスの旅コロナの渦を超へてふたたび  
群馬県前橋市 久 保 田 桂子
- 363 渦中にて詠みためた歌読み返しよくぞ堪へたと我をほめたし  
群馬県前橋市 久 保 田 桂子
- 364 利根川に碧き渦まく淵ありき藤原ダムの底のまぼろし  
群馬県前橋市 山 口 タツ子

- 365 武尊山水を集めて裏見の滝瀑布は溪に白き渦まく  
群馬県前橋市 山口 タツ子
- 366 マフラーをぐるりと巻いて駆け出せば季節はずれの台風になる  
滋賀県高島市 くらたか 湖春
- 367 渦巻きもいつかは凧になるのかな薄くなりゆくあなたのつむじ  
滋賀県高島市 くらたか 湖春
- 368 炎上というより渦の中にいた夏の国会前のハンスト  
神奈川県横浜市 黒川 かおる
- 369 日給の十分の一の座り湯の排水口の渦を見つめる  
神奈川県横浜市 黒川 かおる
- 370 文字だった それでも祖母の抑揚でたしかに耳の渦に転がる  
東京都西東京市 小石岡 なつ海
- 371 ハンバーグのたねが重たく渦巻いてずっと子どものきみの命日  
東京都西東京市 小石岡 なつ海
- 372 海のうえ渦巻き進む雲の目を下から見上げ望む青空  
群馬県高崎市 イマミツ
- 373 沸々とみぞおち辺り熱くする怒りの渦で締あめ作る  
群馬県高崎市 イマミツ
- 374 産声が小さき内耳で渦を巻き稲妻としていま駆け抜ける  
愛知県名古屋市長 遠藤 雄介
- 375 妻も子も吸いこんでゆく渦巻きのかたちに焼いたクロワッサンで  
愛知県名古屋市長 遠藤 雄介
- 376 コロナ禍は確かに渦で国生みのごとく再生されし日常  
愛知県名古屋市長 遠藤 雄介
- 377 瞳から落ちる雫を掬うため僕らの指の先にある渦  
宮城県仙台市長 駅前 昼歌
- 378 廃線の知らせを受けて十月の風が心の中で渦巻く  
宮城県仙台市長 駅前 昼歌
- 379 秋の陽に渦巻き消えてゆく湯気に祖母のまるい背うかんで消えず  
長崎県長崎市長 佐々木 泰三
- 380 2つある子の渦巻きに学業と誰にも言えぬ恋をのぞいて  
長崎県長崎市長 佐々木 泰三
- 381 学校は無理に行かなくなったっていい子の渦巻きにそつと話して  
長崎県長崎市長 佐々木 泰三
- 382 初夏の川 二匹の鯉がお互いの尾を追いうまれる光の渦よ  
長崎県長崎市長 佐々木 泰三
- 383 こぼしたる涙の海図に渦巻いた 言葉で針路は胸刺すばかり  
大阪府羽曳野市長 凛 七星
- 384 つつましき蜂房水渦それぞれに 息づく冬の夕餉の窓よ  
大阪府羽曳野市長 凛 七星
- 385 三歳児のの字くるくる渦描く鳴門かまぼこ食べ食べかざす  
宮城県宮崎市長 青山 昌子
- 386 久しぶり渦巻きぼうにお会いできおいしい甘き満たされつつも  
群馬県みなかみ町 深代 里子
- 387 もどりたる白布の父の傍で身をこぼし続ける渦巻き線香  
群馬県高崎市長 大塚 とみこ
- 388 東雲の鯛の声渦をなし峡ゆさぶりて一日始まる  
東京都青梅市長 荒井 千枝
- 389 山風に散りて渦巻く桜花湖底の村の空にかがよう  
東京都青梅市長 荒井 千枝
- 390 ひと山もふた山も越えて喜寿となり渦巻く人の世ゆらり摺抜け  
群馬県高崎市長 湯浅 慧子

- 391 渦巻は時計回りが効果的 人差し指でトンボを掴む  
群馬県沼田市 桑原 環世
- 392 淀んでる川に突然渦ひとつ雨粒に似た何かの呼吸  
群馬県藤岡市 清水 静子
- 393 後悔の渦がここに浮かぶとき遺影の母の笑顔に会える  
群馬県藤岡市 清水 静子
- 394 台風は渦巻きねたる実り田にコンバインうなる全き秋晴れ  
茨城県鹿嶋市 大熊 佳世子
- 395 濁流が渦まきながら襲ひくる未だ倒壊のままなる町を  
茨城県鹿嶋市 大熊 佳世子
- 396 苔生した蹲くまに渦のあり坪庭広ぐるししおどしの音  
東京都足立区 佐藤 春夫
- 397 洗濯機「うず潮」無くも星空と父母ありき北総の郷  
東京都清瀬市 野原 てい子
- 398 甲子園一回戦で敗退も校名清し「鳴門渦潮」  
東京都清瀬市 野原 てい子
- 399 シナモンを大目に入れて渦巻パン作り待ちし孫の笑顔を  
神奈川県横浜市 高山 克子
- 400 ごうごうと轟く渦潮西海橋恐怖に足元すくわれんとす  
神奈川県横浜市 高山 克子
- 401 やはらかき線香二本をくると渦のごと巻きし蚊取線香  
大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子
- 402 どの辺り鯛のゐるのかせまりくる幾重の渦に目のうばはれて  
大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子
- 403 これまでも渦のようなる日常を越えてきたはず ポラリス見つむ  
秋田県秋田市 蓬田 真弓
- 404 思い出の泉のなかにいくつかの渦あり深く深く沈んで  
秋田県秋田市 蓬田 真弓
- 405 蚊帳をつり渦巻き線香うちは置く古里のとほき夏の吾がいへ  
茨城県鹿嶋市 兎矢野 雅恵
- 406 幼子は手より大きな渦巻きの飴のおやつにびよんぴよん跳ねる  
茨城県鹿嶋市 兎矢野 雅恵
- 407 ニコライ堂坂を下れば学舎の 声のとびかう青春の渦  
群馬県榛東村 岸 和夫
- 408 木枯らしに指の腹から渦が消え指紋認証不能になりぬ  
群馬県高崎市 松本 由美子
- 409 龍が身をくねらせるごと流れ行く洗面ボウルの銀の渦巻き  
群馬県高崎市 松本 由美子
- 410 蚊も恋もどンドン落とすエメラルドグリーンの渦巻き灰の海原  
東京都中央区 佐藤 直大
- 411 心病むゴッホが描く渦巻いた雲は乱流理論に則る  
東京都中央区 佐藤 直大
- 412 棒、レンズ楕円に渦巻不規則も虚空に浮かぶ銀河無数  
群馬県みなかみ町 本多 あきお



一般の部  
【自由題】

作品集

189人 427首  
投稿順に掲載  
太字作品は入賞・入選

- 1 躊躇の着物と米の引き換えに敗け戦の母今も臉に  
三重県龜山市 岩谷 隆司
- 2 散歩道田植えする人有りがとう合掌の手に米の生命か  
三重県龜山市 岩谷 隆司
- 3 梅雨さなか藪に逃れる小蛇の尾踏みたるらしき感觸のあり  
東京都世田谷区 野上 卓
- 4 三島忌の市ヶ谷駅のホームより赤いネクタイ釣堀に見ゆ  
東京都世田谷区 野上 卓
- 5 蝦夷梅雨よ紫陽花前線陸す雨に唄えば狂想曲だ  
北海道札幌市 鎌田 誠
- 6 透析の四時間今日は短かくてヒップロックの大谷躍動  
北海道札幌市 鎌田 誠
- 7 父七つ読み書き習ふ学校を牧水見ずや湯松曾の道に  
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 8 牧水の旅ゆく秋のみなかみに薪を負ふか父の幼く  
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 9 炭を焼くけむりは見ずや牧水のみなかみ紀行の踏む山みちに  
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 10 たまさかの祭囃子の哀しかりふる里に似る山のふもとの  
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 11 放棄地をつたい下り来る猪に相手もされぬ過疎の里人  
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 12 朝一の電車見送る老散歩空気さわやかスイーツはいる  
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 13 温暖化今やエアコン皆備え過疎と言えども戸締りをする  
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 14 下火なるコロナが姿新しくそつと広がる我が町の中  
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 15 読経をかき消す如き蟬時雨朝日にひかる三重の塔  
長野県箕輪町 市川 光男
- 16 制服の乱れも君は気にもせずダンスレッスン激しいリズム  
長野県箕輪町 市川 光男
- 17 ばらばらに壊されていく街のこと対岸にいてピースをさがす  
宮崎県宮崎市 荒尾 洋一
- 18 砂浜のビーチボールの空に舞う今から未来少女の夏は  
宮崎県宮崎市 荒尾 洋一
- 19 新紙幣 ご縁有るよに 神棚に 心も添えて 節約担ぐ  
大阪府大阪市 後藤 憲之
- 20 ウクライナ ロシアと戦う 国技館 スポーツ道は 前後礼有り  
大阪府大阪市 後藤 憲之
- 21 彼方から手招きするは何ものぞ？乱反射する水の面に  
茨城県つくば市 松田 早苗
- 22 肉体のどこか漏水の音はして砂が落ちゆくやうに涸れます  
茨城県つくば市 松田 早苗
- 23 妹の 子犬の年が 六歳と 思っていたが 九歳と知り  
千葉県千葉市 うめさわ かよこ
- 24 あといくつ 生きてくれるか 心配に なりし子犬よ 長生きしてね  
千葉県千葉市 うめさわ かよこ
- 25 荒削りでも光るものを！がモットーの交換日記 若草時代  
東京都足立区 鷺沼 あかね
- 26 五月雨の針は水田を刺し描く同心円の今、今、今、今  
東京都足立区 鷺沼 あかね

- 27 谷川の高嶺に湧ける滝雲は瀑布の如く流れ落ちくる  
群馬県沼田市 内山 高重
- 28 花の尾瀬至仏の峰に陽が落ちてひつじ草閉じ木道眠る  
群馬県沼田市 内山 高重
- 29 どこまでも四十円で仙台をゆるり巡りしチンチン電車  
宮城県仙台市 角田 正雄
- 30 存へば目覚むそびらに積もりゆく悲しみのあり喜びのあり  
宮城県仙台市 角田 正雄
- 31 汗だくであのけちんぼの碁敵がいそいと来る蒲焼を提げ  
埼玉県所沢市 若山 巖
- 32 飛入りでパン食い競争に出たものの肉離れなど起こす三步で  
埼玉県所沢市 若山 巖
- 33 牧草を刈りゆくモアーの直前を雉の飛び発つ抱卵の雉  
大分県竹田市 佐藤 政俊
- 34 近づけば又飛び発ちて斑猫が母の在所へ吾を導く  
大分県竹田市 佐藤 政俊
- 35 歌ひ上ぐる静御前の恋のうた吉野の桜千本吹雪く  
岐阜県中津川市 吉田 順代
- 36 生活なりはびのひと日を終ふ静けさに梔子の香を満たして眠る  
岐阜県中津川市 吉田 順代
- 37 ピツタリと戸を閉ざすがに静もりし異界思はず難聴のみみ  
群馬県伊勢崎市 野口 弘
- 38 針の様早苗植ゑしも濃緑に豊けし葉先は極暑も返す  
群馬県伊勢崎市 野口 弘
- 39 枯れ残る夏の形見のばら一つ風に夢見て過ぎし日を想ふ  
兵庫県宝塚市 小竹 哲
- 40 猛暑にて 稲田の水も枯れ果てて 梅雨はなきまゝ 眞夏と成りしか  
群馬県みなかみ町 松井 とし子
- 41 今日も又 暑さに負けず出勤の 我子あごを安じ ただ帰りまつ  
群馬県みなかみ町 松井 とし子
- 42 不変なる作風を持つ彼の詩に打ち当たっては打ちのめされる  
群馬県高崎市 齋藤 宏子
- 43 馬車馬のごとく走りし四十代ノルマのみある日々なつかし  
群馬県高崎市 齋藤 宏子
- 44 要るものは思う心と夢ですと師は道徳と人の道説く  
群馬県高崎市 齋藤 宏子
- 45 満開の庭のさくららのこぼれ散る笑まふ曾孫ある花見のむしろ  
岐阜県中津川市 古井 富貴子
- 46 ママさんに恋した我をひた隠し茶房の隅で短歌をひねる  
徳島県阿南市 小畑 定弘
- 47 無住寺の池に寄り合う鯉二匹人の気配に音なくうねる  
徳島県阿南市 小畑 定弘
- 48 夫よりひと日といへど長生きしやもめの君と逢ふ日のあれな  
愛知県知立市 星原 風堂
- 49 トラックに「頑張れ！俺！」のスローガン抜きつ抜かれつ老いも頑張る  
愛知県知立市 星原 風堂
- 50 湖はわたしの中にもひとつありオールを漕げば溢れる涙  
岡山県倉敷市 堀 将大
- 51 目玉焼きの黄身を崩せばだんだんと広がってゆく世界の成り立ち  
岡山県倉敷市 堀 将大
- 52 我手術・夫再手術に鬱ぐ夕空でカラスがQu es e r a S e r a という  
東京都東村山市 浦壁 あけみ

- 53 水溜りめがけ二歳が走りきぬ地球のしぶき身に浴びながら  
東京都東村山市 浦壁 あけみ
- 54 亡き夫と大事に住みし家なるに警報の雨とひにあふるる  
広島県福山市 杉之原 壽美
- 55 黄緑のやまびこ号は福島で入道雲を追い越して行く  
群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 56 額縁の向こう側から見られている 誰？カーテンの裾息をして  
群馬県沼田市 岡本 有未
- 57 空キラリ天井観てて目が伸びる地球に触れる隕石写メに  
群馬県みなかみ町 篠原 忠
- 58 富士山を見たくて座る右の席東京行きのMAXたにがわ  
群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- 59 並走して右折する君バイバイと手を振り次の約束はまだ  
群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 60 あの頃に憧れていた自分重なり映るこのショーウィンドー  
群馬県昭和村 加藤 南風
- 61 新築のトイレの明かり付いたならおかず届ける母屋の姉より  
群馬県みなかみ町 小林 はつ江
- 62 早春の木枠の窓に腰かけて母校を去る日を写真に託す  
群馬県みなかみ町 本多 寿美枝
- 63 目が覚めていちばんにすることなあに朝生まれの風部屋に呼ぶこと  
群馬県片品村 金子 美由紀
- 64 仕事場の窓にそいてか山々の変わりゆく木々木の葉まい込む  
群馬県みなかみ町 深代 里子
- 65 寝転がりスマホ片手にアクビする私のことを月が見ている  
群馬県みなかみ町 大山 智也
- 66 尖塔にキラリと光る小窓あり外に出られぬ姫の涙か  
群馬県みなかみ町 小室 史
- 67 雨上がり窓の向こうに虹が出たまだ消えないで外に行くから  
群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子
- 68 水源のつめまで訪ねる牧水のよろこび溢れるみなかみの旅  
群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ
- 69 つる先が揃って窓へと伸びている狂いのなさに胸のすく朝  
大阪府堺市 多々納 萌
- 70 寝転んで窓からの星眺めては諦めないでも諦めたい  
群馬県沼田市 小林 恵美子
- 71 生真面な人であるらんペンキ屋は一人こつこつ大壁抱く  
宮城県宮崎市 熱田 民恵
- 72 ショパン作の「雨だれ」を聴く この星に優しき雨音聞けなくなるや  
群馬県前橋市 松下 昭代
- 73 「蚊遣り」とふ言の葉沁むる夏は来ぬいにしへ人のこころの深さ  
群馬県前橋市 松下 昭代
- 74 炎天になかなか来ぬよ路線バス電信橋の影に消へなん  
京都府舞鶴市 新谷 洋子
- 75 アルタイル夜のとばりに雲隠れ彦星の名を変へんとしたか  
京都府舞鶴市 新谷 洋子
- 76 二の足に大地を踏める上高地膝の手術は回避をせんよ  
京都府舞鶴市 新谷 洋子
- 77 とりどりの花植えふとん干す家や初めての地に幸せ同じ  
大阪府河内長野市 木村 嘉子
- 78 見守られうわさされつつ夏となる村での呼び名は「金剛山百合」なり  
大阪府河内長野市 木村 嘉子

- 79 緩和ケア病室の父その息の小さきこと心細きこと  
群馬県安中市 福田 誠
- 80 麻酔から醒めかける君の目微かに動きぬその先の景色は  
群馬県安中市 福田 誠
- 81 飛行機の吾子に向かひて大声でエール送らむ夢掴めとぞ  
群馬県みどり市 志田 貴志生
- 82 山ひとつ越えしところに村ありて草丈低きそばの花咲く  
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 83 出稼ぎの空に流れる星ひとつ北向く先にわが村のあり  
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 84 揺れたくて狗尾草は風を待たましひ運ぶ風われも待つ  
群馬県沼田市 蛭山 恵子
- 85 近頃は言葉交わさぬ子の部屋のサボテン紅き花を付けたる  
茨城県東海村 風森 漣翠
- 86 老ゆる吾の蛇皮に似てきし皮膚に蛇皮に無き汗の滴る  
茨城県東海村 風森 漣翠
- 87 杉も桧も微動だにせぬ故郷ふるさとで微かに揺れる芒と心  
愛媛県松山市 宇和上 正
- 88 全山のすすきとなりしカルストをどうと揺らして野分はし奔りつ  
愛媛県松山市 宇和上 正
- 89 握りある小銭に温み出でしころバスは終点「文明学館」  
群馬県藤岡市 堀口 りつ子
- 90 甥、姪は呼び捨てのわれ「ゆうま君」と声を和らげ甥の子を呼ぶ  
群馬県藤岡市 堀口 りつ子
- 91 本当にこれでよかつたのだらうかわが来たる道風が冷たい  
青森県八戸市 木立 徹
- 92 表札がのっぺらぼうの家ばかり続く明かりが漏れているのに  
鹿児島県鹿児島市 佐藤 橙
- 93 しょうもない暮らしカタカナに直さずにしょうもないまま生きていこうよ  
鹿児島県鹿児島市 佐藤 橙
- 94 榛名背に黄金の波打ち麦の秋辿る景色に麦笛を鳴らす  
群馬県前橋市 小畑 吉克
- 95 高原の爽や風にラベンダー妻と入り青春に浸れり  
群馬県前橋市 小畑 吉克
- 96 大改修不滅の法灯守りつつ歴史を語る僧若かりき  
千葉県船橋市 川崎 富子
- 97 写経する聖なる山の延暦寺心身ともに浄化となすや  
千葉県船橋市 川崎 富子
- 98 六男の青山留吉が鯨王になりし生き方訪ねてぞ知る  
山形県鶴岡市 大沼 二三枝
- 99 直瀑の七十メートルライト浴び玉簾の滝きらめくしぶき  
山形県鶴岡市 大沼 二三枝
- 100 クーラーに扇風機なるこの夏よ裏の縁側なよりの風  
愛知県蒲郡市 牧原 正枝
- 101 のびる足あぐらもありの枡席はあちらとこちらと女性陣取る  
愛知県蒲郡市 牧原 正枝
- 102 満月の正しさにまた責つかれて 今夜も煎餅布団で寝る  
愛知県豊橋市 神谷 菜摘
- 103 生活をしようと思ひ生活を することのなき陽ひの下の子等ら  
愛知県豊橋市 神谷 菜摘
- 104 どんぐりに くぬぎに象虫 せまい空 暮鳥片手に 言しづまれり  
群馬県高崎市 河野 晶一

- 105 気持ちよく めぎめた朝の 往く路に 漠然と揃う 菊田のこわさ  
群馬県高崎市 河野 晶一
- 106 出来ることさがせば良いと母に言ふ自分につぶやき今日の始まる  
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 107 いつまでものろのろ進む台風に太陽今日も出番失ふ  
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 108 雷は闇を切りさき轟きぬ雹と見まがふ雨粒たたく  
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 109 さはやかな風の吹き抜け陽はさんさんやうやく晴れし空にはとんぼ  
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 110 この先の父母との時間を数ふれば一分一秒慈しみたし  
大阪府摂津市 高橋 好恵
- 111 燕岳を目ざす急登にありつきし合戦小屋の極楽西瓜  
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 112 孫のかく画面はみだす黒猫の目つきにひかれ十年掲ぐ  
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 113 「何だろう」スマホに問へば教へくる何でもござれの答は直ぐに  
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 114 最果ての喜望峰に立ちたる日猛る海・風われらを飛ばす  
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 115 乗り継ぎて上牧までの鈍行は長椅子ばかり通勤のごと  
千葉県柏市 佐藤 和裕
- 116 温泉へ川の淵まで降りること改札までの階段を知る  
千葉県柏市 佐藤 和裕
- 117 豪商の威厳誇ろふ漆喰の真白き税が入り日に照る  
神奈川県厚木市 井上 勝朗
- 118 終日の風静もりて宵闇に遠く泣く児の声徹りくる  
神奈川県厚木市 井上 勝朗
- 119 野良猫に見捨てられいし蜥蜴の尾蠢き蜥蜴の振り向くを待つ  
山口県光市 井ノ口 皓
- 120 熱反射ガラスに映る明け方の下弦の月が干からびている  
山口県光市 井ノ口 皓
- 121 盂蘭盆に故郷を訪うは最後だと心に決めた奥日向路  
宮崎県日向市 黒木 直行
- 122 変えようよ「すみません」より「ありがとう」にそう思いつつ口に出る  
宮崎県日向市 黒木 直行
- 123 それぞれに悩み苦しみ持ちし顔診察前の待合の部屋  
群馬県高山村 割田 良次
- 124 熱戦のオリピックの映像に一喜一憂独り居の夏  
群馬県高山村 割田 良次
- 125 身命を賭して盡すと宣誓し農兵に召されし吾は十四歳  
群馬県高山村 割田 良次
- 126 病床で細りし手足拭きやりし妻の命日墓石を洗ふ  
群馬県高山村 割田 良次
- 127 ババ抜きジョーカーみたい生きてきた爪弾きなんて平気と言う子よ  
群馬県前橋市 中澤 ひろみ
- 128 めっちゃ好きめっちゃヤバイと褒めた気のグルメリポーター箸つかえない  
群馬県前橋市 中澤 ひろみ
- 129 しのび来て命の扉を死はたたく第九の音よりまだ低くけれど  
香川県丸亀市 寒川 靖子
- 130 わが母は亡けれどやさしさ限りなく伝えてくれし教え忘れじ  
香川県丸亀市 寒川 靖子

- 131 陽のなかに花の小さき種播けば見えぬ時計の針動きだす  
群馬県高崎市 井田 建
- 132 赤溟き冬の陽沈む日本海 天動説をつかのま信ず  
群馬県高崎市 井田 建
- 133 突然の夫の逝去に挨拶を受けつつ友は背を伸ばし立つ  
岐阜県飛騨市 江尻 恵子
- 134 過ぎし日にわれを打ちたる言の葉は漂いながら枯れるを知らず  
岐阜県飛騨市 江尻 恵子
- 135 北斎の八方にらみの鳳凰の鋭き眼が我をはなさず  
埼玉県本庄市 清塚 茅香子
- 136 カーテンを開ける庭辺に初雪が紅き椿にしんしんと降る  
埼玉県本庄市 清塚 茅香子
- 137 山の路の無人社に花手水「平和」と書きて小石を重ね  
群馬県藤岡市 神田 恵美子
- 138 忘れじの都踊りの華やぎや黒裾引きの芸妓の極み  
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 139 単線のワンマン列車ほくほく線吾一人のせがむしやらにゆく  
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 140 もてなしと匠の技の其処此処にそに誘われて再びの宿  
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 141 被災地の水出ぬ蛇口間をおかずひねる婆の手一縷の望み  
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 142 牧水を慕ひ夜道を九里十里今ならそれを「推し」といふらむ  
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 143 門口を朝顔百花おほひたり友逝き三年秋はかなしも  
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 144 眠られぬぬばたまの夜に閃きし短歌のかけらは行く方知れず  
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 145 閉店を惜しみ記念に購ひしびーどろの盃相棒となる  
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 146 何のうさを晴らす若さか週末の夜更けを連ねバイクを噴かす  
群馬県高崎市 井田 善啓
- 147 ちちははは悦びはらはら視てをらむ新人アナのニュース始まる  
群馬県高崎市 井田 善啓
- 148 生れてより抱かるることも抱くこともなく征きたる父を恋ふ八十歳  
群馬県高崎市 井田 徳子
- 149 花巻遠野地名うれしき友よりのハンカチーフの「銀河鉄道」  
群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子
- 150 画眉鳥か声聞こえ来る藪木立中を探りて「画眉語」に返す  
群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子
- 151 客車二輛ループトンネル今し入る出で行く坂下見むと走りぬ  
群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子
- 152 三途の川を渡り損ひ帰り来と百名山を成しとげし友  
群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子
- 153 土合駅上り下りの吐く息の谷川岳はやはり魔の山  
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 154 谷川を出でし川瀬の水草に晩秋の翳さす双つの峰が  
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 155 わずかでも地竜吐き出すつぶの泥この一毛が地球にはある  
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 156 畦道に幼としやがみ田の中のおたまじやくしに話しかけたり  
茨城県笠間市 飯田 初江

- 169 168 167 166 165 164 163 162 161 160 159 158 157
- 母衣蚊帳を輾転はみ出す熟睡児のはち切れさうな手足のくびれ  
 東京都町田市 谷川 治
- 地震なくば津波なければ君はいま青春謳歌生きゐるものを  
 東京都町田市 谷川 治
- 野仏の道に野いちご摘みし手にかおりの甘くひと日残りぬ  
 群馬県川場村 桑原 謙一
- 幾組も交尾して飛ぶあきあかね水づく刈田に産卵続く  
 群馬県川場村 桑原 謙一
- 息を吸いふうつと腹から吐いたあと鏡を見つめ八重歯を映す  
 群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 田園の奥の林の真緑のそのさらに奥の深緑色  
 群馬県沼田市 岡本 有未
- 注目の判決下る水原が「闇は誰もがぶら下げて要る」  
 群馬県みなかみ町 篠原 忠
- そこにいるみんながみんな怒ってるなんでそんなに怒っているの  
 群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- ほんのりとマンゴーの香りただよって下戸の君持つフルートグラス  
 群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 退勤時スマホ打つのは悲喜どっち俯いたまま視線も変えず  
 群馬県昭和村 加藤 南風
- 「大丈夫」そう言いながら深呼吸 手術はきつと成功するよ  
 群馬県みなかみ町 小林 はつ江
- 見開いた瞳潤んで頬伝う凍りついてた心が解けてく  
 群馬県みなかみ町 本多 寿美枝
- こころ折れ怒り悲しみ漏らすなど無になり笑顔の面をつける  
 群馬県片品村 金子 美由紀
- 182 181 180 179 178 177 176 175 174 173 172 171 170
- ちびちゃんウイंक遊び目と目で共に輝きあすもよろしく  
 群馬県みなかみ町 深代 里子
- 口角が五ミリ上がると幸せになると信じて鏡に向かう  
 群馬県みなかみ町 大山 智也
- 寡黙なる父の表情歪みおりむつかる孫に つられ泣き顔  
 群馬県みなかみ町 小室 史
- 帰るたび下駄箱上で訴えるご飯欲しいよ寂しかったよ  
 群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子
- 吾だけの睡眠時間てに入れて熟睡すれども義父の夢見る  
 群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ
- まどろみから目覚めたばかりの笑みたたえ5月の空を見上げる黄バラ  
 大阪府堺市 多々納 萌
- 「夕べ見た夢のかけらを拾ったの」そう言う君は少し寂しげ  
 群馬県沼田市 小林 恵美子
- ふるりは蓮根掘るころ父を恋ふ泥にまみれて終えし一生  
 大分県国東市 原 比呂子
- 朝露に濡れたトマトの赤き実のまろき感触君が唇  
 大分県国東市 原 比呂子
- 相老いて長き月日を思いはせ高嶺に澄める月と親しむ  
 群馬県みなかみ町 石坂 作次
- 待ちにまつ遠来客迎えたりアサギマダラの姿たすがしき  
 群馬県みなかみ町 石坂 作次
- 団扇にて涼みし頃を懐しみエアコンかけて昔を語る  
 群馬県みなかみ町 高橋 吟子
- 夜の雨いつしか止みて明け方に小窓にうつる月影おぼろ  
 群馬県みなかみ町 高橋 吟子

- 183 あちこちの稲は刈られて藪は田一面に緑鮮やか  
群馬県みなかみ町 高橋 吟子
- 184 歴史的遺産を誇る須川宿次代へ繋ぐ匠の文化  
群馬県沼田市 内山 路鳥
- 185 秋ついでアサギマダラは城跡に羽を休めて渡る風待つ  
群馬県沼田市 内山 路鳥
- 186 夫亡くし淋しき思ひ続きしが子猫を飼へがあまりの灯る  
群馬県みなかみ町 小林 博子
- 187 夫の死を認めず仕事に明け暮れて一周忌なる晴天仰ぐ  
群馬県みなかみ町 小林 博子
- 188 ジャングルと化しいし畑を孫が来て草刈機にて刈りてくれたり  
群馬県みなかみ町 小林 博子
- 189 つり銭の新札にして美人なる津田梅子さん大事にしまふ  
群馬県みなかみ町 小林 博子
- 190 狭隘な奥利根の道訪ねみて水や木の精優雅に舞へり  
群馬県みなかみ町 久野 とし子
- 191 木枯しや野面に星を散りこぼし露の輝く中に佇ちたり  
群馬県みなかみ町 久野 とし子
- 192 プレゼントのエリマキえらぶ老の目は逝きて遠のき夫想ひいづ  
群馬県みなかみ町 久野 とし子
- 193 もの言えぬ自然の破壊耐へ兼ねし地球のいかり進む温暖化  
群馬県みなかみ町 久野 とし子
- 194 わらじかえ何千足を履きつぶし硬き踵の牧水の足  
群馬県みなかみ町 原澤 朝則
- 195 風と雲流れるままに身をまかす寅さんいいなしがらみ無くて  
群馬県みなかみ町 原澤 朝則
- 196 背は汗に西日草刈るつるのやぶ蛭とやぶ蚊に襲われながら  
群馬県みなかみ町 原澤 朝則
- 197 中秋の灯り求めるやせ蛙夜半の風吹く張り付く網戸  
群馬県みなかみ町 原澤 朝則
- 198 ふる里の林立マンション丘の上の日暮れ早きに明かりの点かず  
群馬県みなかみ町 荒木 洋子
- 199 秋立ちてきうり這ひゆく柵に見ゆ黄の花いくつ外すをためらふ  
群馬県みなかみ町 荒木 洋子
- 200 突然の雷雨のあとにひらけたる敷地面積湯気立つ真昼  
群馬県みなかみ町 荒木 洋子
- 201 長らくに炊き来し親族のお赤飯最後かけふは孫誕生日  
東京都杉並区 堀井 邦子
- 202 縁台に寝転びて見し流星群少女期遙かふるさとの夜は  
東京都杉並区 堀井 邦子
- 203 虹立ちて磐梯山にアーチせりレストランの客総立ち撮る  
東京都杉並区 堀井 邦子
- 204 漸くに程良き秋か長かりし夏の過ぎゆく寒暖さ好し  
東京都杉並区 堀井 邦子
- 205 サルトルもボーヴォールも何処にかサンジェルマンデプレ時のあはひに  
大阪府堺市 名川 由江
- 206 二人して空見上ぐれば満月は月光冠に抱かれてをり  
大阪府堺市 名川 由江
- 207 花の庭時折り訪ねし野良猫の昨日は二匹今日はまだ来ぬ  
群馬県みなかみ町 林 好一
- 208 シルバーカー時速六キロ裏道が似合う八十路の愛車となる  
群馬県みなかみ町 林 好一

- 209 甚平の昨日は夏日今朝は冬長袖作務衣羽織り暖とる  
群馬県みなかみ町 林 好一
- 210 終活やあれもこれもと片付けた訳も昨日のまゝと変わらず  
群馬県みなかみ町 林 好一
- 211 調律師のジュラルミン製道具箱不審物のごと舞台の隅に  
岡山県和気町 行正 健志
- 212 出かけんとそわそわすればどこ行くの見上げる猫の目はいじらしき  
岡山県新見市 浅井 和枝
- 213 子らと乗る縄の電車の始発駅ぞうすべり台終着駅も  
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 214 無人駅となりし古里の駅に立つ別れたはずの私が頭ちぬ  
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 215 音たてて山野に雪の降るならん戦争の闇胸内に迫る  
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 216 わたくしの顔より大きき朴の葉の目鼻ついたり田舎味噌にて  
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 217 青春は月より遠く愛しきはあの切なさか黄昏 仰ぐ  
群馬県みなかみ町 中島 早苗
- 218 古事記にもギリシヤ神話も妻を恋ひ黄泉の国訪ふ謂れの不思議  
群馬県みなかみ町 中島 早苗
- 219 野紺菊 日を追ふごとに濃むらさき 霜降るまでの貴やか哀れ  
群馬県みなかみ町 中島 早苗
- 220 氷結の滝に向かいてカメラ据え水音も撮る静寂の中  
群馬県前橋市 梅澤 祐一
- 221 明治期の養蚕のなごり鏡戸は煤におおわれ引手に重し  
群馬県前橋市 梅澤 祐一
- 222 祖母かつ、に「世話になりし」とスカートを 誂えくれし縫製屋をり  
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 223 母に似し貴婦人の横顔の めのうイヤリングを母に贈りし  
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 224 紫のマダムジュジュ有り鏡台に 几帳面な母、昭和の女  
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 225 料理しながらストレッチ 毎日、20品目は食べてます  
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 226 お正月クリスマスと世間が浮かれ 我もウキウキ 共感力の、おかげかな  
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 227 年重ね誕生日を迎えるは 嬉しき事になりにつけり  
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 228 源流の雪溪目指す尾根険し腰を下ろせば犬鷲の舞ふ  
群馬県前橋市 武藤 洋一
- 229 何度見てもアートの思へる柿すだれ借景は雪の谷川連峰  
群馬県前橋市 武藤 洋一
- 230 鰯雲独り占めせむと大の字になりし野天の湯も独り占め  
群馬県前橋市 武藤 洋一
- 231 海面にいずる旗魚と翻車魚を船に背鳍で見分け釣投ぐ  
大阪府岸和田市 向井 靖雄
- 232 生れてより利根の川瀬は子守り歌わが悩みをも包みて流る  
群馬県みなかみ町 石坂 喜美江
- 233 歌友と川場路の歌碑巡ぐりくる晩秋の陽に師の笑むの顕つ  
群馬県みなかみ町 石坂 喜美江
- 234 落ち葉たちハートで集まりおでむかえ 心つかまれ来宮神社  
群馬県みなかみ町 原澤 君子

- 235 ゆふばえに駆けゆくひつじ雲の果て永遠はなくさよならさよなら  
神奈川県横浜市 谷口 葉月
- 236 ぼつねんと野にポリバケツじわじわと広がりてゆく青き違和感  
秋田県湯沢市 村田 磨理子
- 237 摩り切れて傍らにある広辞苑我とおない年古稀になります  
秋田県湯沢市 村田 磨理子
- 238 時折に詐欺地面師現れる 我政府に廃絶望むなり  
大阪府大阪市 みなかみ之川
- 239 東京オリムピック開かれる コロナウィルスで制限される  
大阪府大阪市 みなかみ之川
- 240 決められた大型イベント大阪で 万国博覧会我見たし  
大阪府大阪市 みなかみ之川
- 241 お金とは古代時代から存在す お金優遇時代が重い  
大阪府大阪市 みなかみ之川
- 242 冬眠の獣のやうな匂ひしてきみの古びたモッズコートは  
千葉県市川市 岡本 恵
- 243 聖人ぢや暮らせなくつてキッチンの蠅取り棒は真つ赤な墓標  
千葉県市川市 岡本 恵
- 244 如何に岩は水を湛ふ白き花はすくと立ちて斯くと示せり  
東京都文京区 遠藤 玲奈
- 245 アンブレラ種なること知るや知らずや空の輪郭辿る狗鷲  
東京都文京区 遠藤 玲奈
- 246 君といて相い向かい合う瞬間を愛しと思う夕げの時よ  
群馬県高崎市 木内 寿子
- 247 手につかむ本を投げやりうつ伏せてコロナの夜の孤独に耐えり  
群馬県高崎市 木内 寿子
- 248 今はもうこんなことしかできないよ己が脚踏つ鞍上の騎手  
愛知県名古屋市長 清水 良郎
- 249 レコードのジョンもポールも若々し老けてゆくのは僕の声だけ  
愛知県名古屋市長 清水 良郎
- 250 ヤッホーとこだまが返るくごもった声 天国からの返信か  
群馬県みなかみ町 ベネット 昭子
- 251 耶馬溪をしのぐ美景の吾妻峡巨大な壁が手を広げ待つ  
群馬県みなかみ町 ベネット 昭子
- 252 夫逝きて二十五年を永らへり吾に曾孫の九人目間近  
群馬県みなかみ町 林 恵美子
- 253 娘夫婦のはからひの紅葉狩り異常気象をねぎらひながら  
群馬県みなかみ町 林 恵美子
- 254 立冬の谷川岳は初の雪もみぢ連ねて誇らしげなり  
群馬県みなかみ町 林 恵美子
- 255 今年も来た水笛に似て鳴く小鳥独居の夕べ耳傾ける  
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 256 何年前か暮坂峠に紅葉狩り錦秋背の牧水像 今年如何ですか  
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 257 錦秋の嵐山小倉山見る渡月橋子等に誘われ まだ歩けた旅  
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 258 銀杏散る透かせば遙か秋の日の夫逝きし病院の窓辺の見ゆる  
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 259 病みし我心は黄泉に傾けど肌つや光る湯の里帰り  
大阪府寝屋川市 森重 深聲
- 260 ふんだんに心配りの旅となる里の湯ほぐす我も心も  
大阪府寝屋川市 森重 深聲

- 273 地球儀に指もて辿る北回帰線 台湾の旅に知り得し一つ  
神奈川県愛川町 富田 茂子
- 272 海を越え孫らに届けと絵はがきにJAPANと記す台湾の旅  
神奈川県愛川町 富田 茂子
- 271 人の名の思い浮かばぬこと多き日日の助っ人スマホ検索  
神奈川県川崎市 藤原 礼子
- 270 金婚を越えし夫婦のやりとりのことあるごとに人の名たしかむ  
神奈川県川崎市 藤原 礼子
- 269 叔父が先き馬まで満蒙開拓へ敗戦なれど今だ帰らず  
長野県飯綱町 井澤 榮一
- 268 とともに手をふった「草津」は新型に児は七歳に白雲流る  
群馬県渋川市 忽滑谷 三枝子
- 267 空き家消え全て空き地となる隅を灯していたり鶏頭の朱  
群馬県渋川市 忽滑谷 三枝子
- 266 病室の母に頼まれ家に行く返事はないが「ただいま」を言う  
茨城県ひたちなか市 坂上 くも
- 265 利き酒を舌に転がす明るさは初めて出会う人との会話  
茨城県ひたちなか市 坂上 くも
- 264 照らさるる碧き硝子の湛へしは国と国とを繋ぐ海色  
千葉県柏市 まれよ
- 263 寄せて引く波間に残るシーグラス人魚姫より届きし手紙  
千葉県柏市 まれよ
- 262 クロールで二羽のカラスが追いたてるトンビはクイックターンで躲す  
山口県光市 松本 進
- 261 この人に食べて欲しいという人の消えれば野菜作りも虚し  
山口県光市 松本 進
- 274 函館の漁火通りの啄木の像のめぐりに咲ける<sup>はまなす</sup>浜薔薇  
神奈川県愛川町 富田 茂子
- 275 日本には四季薄れゆく気配して十月になり夏日の続く  
群馬県みなかみ町 関 和子
- 276 山ひとつ日暮早める夕庭にチューリップ植えは明日に持越し  
群馬県みなかみ町 関 和子
- 277 生きてればいい事あると医師の言う素直に聞けない癌告知の日  
群馬県みなかみ町 大川 美知子
- 278 赤飯と黍をかかえ神社迄祖父の背を追う秋祭りの日  
群馬県みなかみ町 大川 美知子
- 279 露草も何時しか庭の花となり筆るに惜しく眺めていたり  
群馬県みなかみ町 大川 美知子
- 280 生玉子コップに割って醤油差し仕事の前にトウルリ飲み込む  
群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 281 内視鏡検査の恐怖回避する為に食べてるキノコと根菜  
群馬県沼田市 岡本 有未
- 282 毎朝ストレッチ筋トレ続けてる寸胴の殻破り捨てたい  
群馬県みなかみ町 篠原 忠
- 283 健康をテーマで作る短歌って標語みたいになりがちだよ  
群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- 284 乗ってみる一憂の朝練り返し気休め程度筋トレ継続  
群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 285 八千歩目標掲げ今日も行く子守りした日は漏れなく達成  
群馬県みなかみ町 小林 はつ江
- 286 水素水貰って飲んで早二年「胃には優しい」と小声で伝える  
群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

- 287 野菜から食べるといいとわかってるはずなのに肉から食べちゃった  
群馬県片品村 金子 美由紀
- 288 毎日のお休みタイム健やかに誰もが願う自分のからだ  
群馬県みなかみ町 深代 里子
- 289 白濁のどろっとした液飲み干して逆さにされてもゲップは我慢  
群馬県みなかみ町 大山 智也
- 290 よきことは くうねるあそぶ健やかに花鳥風月五感で受けて  
群馬県みなかみ町 小室 史
- 291 足腰を考えもせず飛び回り寝込んで気づく体の悲鳴  
群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子
- 292 ほお紅く夢見がちな目の児は歩く街に健やかな風を吹かせて  
大阪府堺市 多々納 萌
- 293 バラバラな心と身体繋げるは美味しいご飯こんなのがいい  
群馬県沼田市 小林 恵美子
- 294 白玉の0・100思考叱られて一合あまりの酒に親しむ  
山崎 杜人
- 295 生まれ来て十日で死にし妹に代わり吸い出す母のほろ苦き乳  
群馬県千代田町 大谷 光男
- 296 胡桃二個百歳をめざせる母の伴しびれる指に血液送る  
群馬県千代田町 大谷 光男
- 297 退院の延びたしわ寄せ夫・友に全部救われ無事に明日来る  
群馬県千代田町 大谷 徳湖
- 298 カテーテルの匂う排尿術後四日目の温もり生きてる証  
群馬県千代田町 大谷 徳湖
- 299 母の死を受け入れ難くありがとうごめんねも言えず送りに三年  
群馬県みなかみ町 山口 雅子
- 300 散歩道三国の空を赤く染め三日月の肩に宵の明星  
群馬県みなかみ町 細谷 龍男
- 301 霜降りてもういいかいと尋ねれば鈴なりキウイ葉から顔出す  
群馬県みなかみ町 細谷 龍男
- 302 霜月の半ばなれど夏日なり半袖を着て地球を憂う  
群馬県みなかみ町 細谷 龍男
- 303 夕空にぽっかり浮かぶ望月の理屈は解れど宇宙の不思議  
群馬県みなかみ町 細谷 龍男
- 304 病院食まずしと友と語り合う塩を控える齢には非ず  
岐阜県郡上市 海神 瑠珂
- 305 見よ息子雌の鈴虫が結婚の相手を食べてしまったのだぞ  
岐阜県郡上市 海神 瑠珂
- 306 報らせぬも思ひやりなり哀しみのひとつを秘めて母との花見  
愛知県岡崎市 西村 愛美
- 307 美味しいと思えることが嬉しいと卒寿の母はメニューを選ぶ  
愛知県岡崎市 西村 愛美
- 308 カマキリを飼う飼わないの攻防戦泣き叫ぶ子に根負けし親  
群馬県伊勢崎市 齋藤 洋子
- 309 秋暮れの飛行機雲の短きを隕石といひて大騒ぎの子ら  
群馬県伊勢崎市 齋藤 洋子
- 310 尚齒会より六十年婚の称賛状もらひて夫言ふ仲良しでいいね  
島根県出雲市 金山 黎子
- 311 立秋よりひと月経るに残暑など忘れたやうに猛暑日につづく  
島根県出雲市 金山 黎子
- 312 月夜野の畠に杖つきりんご狩りムーンルージュ手の平に挽ぐ  
群馬県高崎市 湯浅 茂子

- 313 叔母宅の朝の食卓湯気立ちて鱈のひらきにトマトも美味し  
香川県三豊市 上久保 忠彦
- 314 町街を時計のごとく売り行きぬその道沿ひの四季の移ろひ  
香川県三豊市 上久保 忠彦
- 315 「スマホさえあれば一人で生きられる」離婚した友の細い指さき  
埼玉県春日部市 藤澤 由紀
- 316 **朝起きて夜寝るだけをくり返し再婚をして夕焼けを見る**  
埼玉県春日部市 藤澤 由紀
- 317 喜ばれる事が病む身の力なると覚る宵の路栗を届け来  
群馬県安中市 新井 八重子
- 318 ニヶ月の意識不明より還りたる先輩歌友の瘦せし脛撫つ  
群馬県安中市 新井 八重子
- 319 未発表の牧水の一首の掛け軸は図書館にあり宮崎の宝  
宮崎県宮崎市 中村 葉月
- 320 十年か五年にするか迷ひをり十年日記八十路で終わりぬ  
宮崎県宮崎市 中村 葉月
- 321 行き合ひの空はキャンバス君のゆく世界を描け絵筆のごとく  
福岡県北九州市 水の 眠り
- 322 一つずつ目盛りが減りゆく炊飯器あさの余裕をわたしにくれる  
福岡県北九州市 水の 眠り
- 323 つわぶきの花の黄色もあでやかに日ごとにいろふ小島の山肌  
熊本県熊本市 下城 公秀
- 324 妻の眼に点す一滴にひかりありこの残生のしるべのごとく  
熊本県熊本市 下城 公秀
- 325 夜も昼も異形の影が踊りいて都市に流るるラヴェルのボレロ  
埼玉県ふじみ野市 雨 雨 雨 汰
- 326 えも生かぬ無下なるわれのうつし身をみみず蚯蚓・おけら螻蛄と比ぶれば、昏れ  
埼玉県ふじみ野市 雨 雨 雨 汰
- 327 差し伸ぶるその手届かず流さるる夫君目に追ひ叫ぶその声  
石川県金沢市 橋本 枝折
- 328 鉦叩きのやさしき音色とどきたり「そのままがいい。自信をもてよ」と  
石川県金沢市 橋本 枝折
- 329 母と娘の三人そろつてププペポ公園帰りにわらつてわらつて  
広島県広島市 小野 系子
- 330 熊蜂のまるまりて死せりしづけさは濃くあをく夏の盛りを  
広島県広島市 小野 系子
- 331 「とげ注意」とフィンガーライムに書いてありもう触らんと手を伸ばす夫  
東京都豊島区 西澤 京子
- 332 甘き香が植物園に漂ひぬジンジャーの花白き霜月  
東京都豊島区 西澤 京子
- 333 **亡き父がふとした拍子に現はるる今朝もきゆうりのぬか漬け食む時**  
群馬県渋川市 木暮 由利子
- 334 くるくると落ち葉舞いあげ吹く風にネコバスだと子が空を見上げる  
群馬県渋川市 木暮 由利子
- 335 重ねくる試練の嵐身に受けん艱難耐える葦の如くに  
千葉県柏市 昴 仙
- 336 名残り惜し去りゆく人へ思いはせ明日はいづこか草枕かな  
千葉県柏市 昴 仙
- 337 ペンギンはじつと光の方を向く幸せになる儀式のように  
宮城県山元町 太田 君江
- 338 顔立ちがおぼろげである知り合ひの三割読めぬ崩し字の賀状  
宮城県山元町 太田 君江

- 351 熱中症アラートが空気乾燥注意報に変わる晩秋  
徳島県阿南市 坂東 典子
- 350 面取りがやさしく曳かれいち木が〈柱〉となりて今よこたはる  
福岡県大牟田市 西山 博幸
- 349 校庭の外に松毬落ちてゐてへわたしの耳を拾へと申す  
福岡県大牟田市 西山 博幸
- 348 おいらんの姿浮かぶよ女郎蜘蛛 前世の姿この世に見せて  
大阪府柏原市 田倉 あけみ
- 347 幼き日遊んだお寺は国府跡 越前富士も共に老い行く  
大阪府柏原市 田倉 あけみ
- 346 クレームに涙止まらぬ同僚は泣いてる時間も時給つけてと  
東京都大田区 服部 明日繪
- 345 街灯の薄い灯りを取り込んで黄紅葉は照る家路の灯台  
東京都大田区 服部 明日繪
- 344 ガレー船ねむれる昏きうなその砂の動きを遠く聴きおり  
東京都国立市 宮崎 洋子
- 343 分かち合い得ぬそれだけを分かち合い柳青むを川越しに見つ  
東京都国立市 宮崎 洋子
- 342 全身を照らすひかりが降り注ぐ水の切れ目を見つめる金魚  
埼玉県ふじみ野市 青林 采里
- 341 陶磁器の湯呑みの底にヒビがあり砂漠のように喉渴きゆく  
埼玉県ふじみ野市 青林 采里
- 340 カーテンの隙間に漏れる月明かりその明るさで満月と知る  
長野県安曇野市 茅野 勇史
- 339 新しい眼鏡を選んで三時間 似合うメガネはまだ見つからず  
長野県安曇野市 茅野 勇史
- 352 錫よりも鉄チタンを推してこの先の十年ととせ支ふる夫婦箸ハシ選る  
群馬県大泉町 太刀花 紗シヨ
- 353 散ることの惜しさの沁むる秋の夜に「月に咲く」とふ紅茶を淹れる  
群馬県大泉町 太刀花 紗
- 354 ゆくりなく薫るとみえてやがて消ゆ丹桂のごとき恋の残像  
群馬県大泉町 太刀花 紗
- 355 死にたるも生けるも命ふりさけて今年も白し谷川岳は  
群馬県大泉町 太刀花 紗
- 356 「闇バイト 防犯対策やっている？」スマホの顔から 娘の叫び  
群馬県みなかみ町 原澤 廣子
- 357 「かわいいな!!」遠方で生きる 娘から 時々届く 孫の所作仕草  
群馬県みなかみ町 原澤 廣子
- 358 宵闇が迫る散歩に虫の音は 姪が奏でる琴の音に似て  
群馬県みなかみ町 諸田 弘
- 359 暑き陽の豪雨に荒れし利根の瀬は 今、サラサラと紅葉映して  
群馬県みなかみ町 諸田 弘
- 360 氷雨ふる日は気兼ねなくちまちまと炬燵守りして一と日を過ごす  
群馬県みなかみ町 杉木 輝夫
- 361 ふるさとのぐるり初冬の山並は紅葉まじりて薄むらさきに  
群馬県みなかみ町 杉木 輝夫
- 362 空見上げ信じがたしや地動説満天の星きらめく銀河  
群馬県みなかみ町 真庭 唯芳
- 363 朝夕の風のすぎるも和らぎて軒の風鈴音なくゆれる  
群馬県みなかみ町 真庭 三枝子
- 364 陽の匂い存分に吸う切干しを姉は笑顔で袋に詰める  
群馬県みなかみ町 澁谷 典子

- 375 弟に招かれ間人カニ三味野菜食なる我家の恋し  
群馬県みなかみ町 澁谷 典子
- 376 籾殻を焼く白煙の棚引きてみなかみの里冬に入り行く  
群馬県みなかみ町 澁谷 典子
- 377 吾の人生共に歩みて半世紀今も現役裁バサミかな  
群馬県みなかみ町 澁谷 典子
- 378 北の涯宗谷岬に建つ石碑九人の乙女の悲劇伝えし  
群馬県みなかみ町 原澤 芳雄
- 379 廃校となりし分校荒れし庭秋桜可憐ひっそりと咲く  
群馬県みなかみ町 原澤 芳雄
- 380 国宝の三重の塔見上げ笑む羅漢の顔は父親に似て  
群馬県みなかみ町 原澤 芳雄
- 381 秋桜が一面咲いた休耕田青空の下秋茜舞う  
群馬県みなかみ町 原澤 芳雄
- 382 **無期限の旅券のように晴れた日はあなたの手紙をひらきたくなる**  
東京都武蔵野市 北谷 雪
- 383 遊覧はここまで 会えない人の声思い出せたらもう起きなさい  
東京都武蔵野市 北谷 雪
- 384 千漣びて縮みし喜寿の脳活<sup>なま</sup>かす水を求めて今日は鎌倉  
山口県山陽小野田市 山縣 満里子
- 385 虹鱒の釣り堀に夫と竿をふる小雨ふりても止めるものかは  
山口県山陽小野田市 山縣 満里子
- 386 きぞ空を血の海に染めし太陽がけさは穏しや熟柿色に染め  
山口県山陽小野田市 山縣 満里子
- 387 君とゆく京都の秋はまばゆくて真紅のみみぢに声も出ずる  
群馬県前橋市 久保田 桂子
- 388 公園に佇むひとの誰もかもシルエツトとなる秋の夕暮れ  
群馬県前橋市 久保田 桂子
- 389 葛の花道曲るごと匂い立つ姉九十九の野辺のおくり  
群馬県前橋市 山口 タツ子
- 390 湯桧曾より藤原郷へと牧水の雪にはばまれ来ずは惜しけり  
群馬県前橋市 山口 タツ子
- 391 公園に子一人居ずブランコに卒寿の吾とタンポポの花  
群馬県前橋市 山口 タツ子
- 392 武尊山初雪といふふるさとの茅葺屋根のいろり火恋し  
群馬県前橋市 山口 タツ子
- 393 なあ牧水うまかったのか くちづけるたびに波立つ御猪口の酒は  
滋賀県高島市 くらたか 湖春
- 394 十本のネイルを空にかざすとき季節はずれの火花火になる  
滋賀県高島市 くらたか 湖春
- 395 マンホールを必ず踏んで帰る道ここはわたしの生前だから  
神奈川県横浜市 黒川 かおる
- 396 地獄への道なら上り階段な気がする落ち葉ぱりぱりとして  
神奈川県横浜市 黒川 かおる
- 397 **雑踏にスーツが溶けて消えてゆく鯖の背中は海の迷彩**  
東京都西東京市 小石岡 なつ海
- 398 もうすぐで音楽になる午前二時しずまる街の雪はさやかに  
東京都西東京市 小石岡 なつ海
- 399 雨匂う風が私の左頬無人のホーム霞む谷川  
群馬県高崎市 イマミツ
- 400 リヤカーに私だけ乗せ引く父とガタガタ道を進む夕暮れ  
群馬県高崎市 イマミツ

- 391 ラメ入りのネイルチップをつけるとき爪切りでまず外す三日月  
愛知県名古屋市 遠藤 雄介
- 392 コンビニの白い光を溜め込んで微かに夜を裂くレジ袋  
愛知県名古屋市 遠藤 雄介
- 393 紺色の靴下ふと脱ぎ捨ててフラミンゴへと戻る私  
愛知県名古屋市 遠藤 雄介
- 394 音だけが聞こえる花火の音だけが死んだ金魚を埋めた庭には  
宮城県仙台市 駅前 昼歌
- 395 景品がコップで良かったたんぼの花瓶をちようど探していたとこ  
宮城県仙台市 駅前 昼歌
- 396 百握り母が自慢の子のよう何度も見たりわが左手を  
宮城県仙台市 駅前 昼歌
- 397 夏休み父が毎朝はりきつて一のこ川にぼくら連れゆく  
長崎県長崎市 佐々木 泰三
- 398 泣いていい泣かなくていい夕焼けは祖母の手に似て果てなく優しい  
長崎県長崎市 佐々木 泰三
- 399 アゴをつき口とがらせて眉しかめ鉛筆にぎる子の背には夏  
長崎県長崎市 佐々木 泰三
- 400 掛けちがうポタンのような月の夜の 底にはゆきつもどりつす波  
大阪府羽曳野市 凛 七星
- 401 ざらざらと傷み黒ずむ青春の 挽歌の空へボールを投げし  
大阪府羽曳野市 凛 七星
- 402 棺中朱の紅ひくは八十路なり新しき恋求めて黄泉へ  
宮城県宮崎市 青山 昌子
- 403 見えるのはふるふる揺れるイヤリング頭回れば不意なる笑顔  
群馬県高崎市 大塚 とみこ
- 404 老いたれば短歌を杖に歩みゆく百歳への道たのしみながら  
東京都青梅市 荒井 千枝
- 405 探してももう見つからぬ宝物失ひて知る夫の存在  
東京都青梅市 荒井 千枝
- 406 丸清の蕎麦を食べたき四ツ角の亡き父母夫も知らぬ贅沢  
群馬県高崎市 湯浅 慧子
- 407 コリオリの力のような関係で 続いたものだ40年間  
群馬県沼田市 桑原 環世
- 408 散歩途中畑でいただく挽ぎたての無花果は今年一番の味  
群馬県藤岡市 清水 静子
- 409 通学路で会えば挨拶かわす子の声はいつしか低くなりおり  
群馬県藤岡市 清水 静子
- 410 口内炎舌になぞりて物干しすカシワバアジサイ白が眩しい  
茨城県鹿嶋市 大熊 佳世子
- 411 己よりも倍ほどの陰つくらせて網戸の蝸螂の陽をあぶ  
茨城県鹿嶋市 大熊 佳世子
- 412 終日の渡り羨む風見鶏風のままなる一瞥の目は  
東京都足立区 佐藤 春夫
- 413 再雇用のわれの急性肩こりを若き同僚「六十肩ね！」  
東京都清瀬市 野原 てい子
- 414 紫陽花のベンチに時を分かち合う淑女四人のまあるい背中  
東京都清瀬市 野原 てい子
- 415 たーちゃんにあさこпейちゃんと呼び合ひて五十路の子らの初同窓会  
神奈川県横浜市 高山 克子
- 416 摘みたての狗尾草を瓶に挿し野草の好きなへプバーン偲ぶ  
神奈川県横浜市 高山 克子

- 417 歴史会のシニアばかりの夏詣 伊和志津神社に初蟬の鳴く  
大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子
- 418 満月をひとり見てゐる足元にレースのカーテンゆらす風あり  
大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子
- 419 子も孫も誰をも待たず母さんは逝ってしまった 父さんの空へ  
秋田県秋田市 蓬田 真弓
- 420 母さんが居らなくなった此の世には寂しい鬼が棲んでいるんだ  
秋田県秋田市 蓬田 真弓
- 421 延命治療望まぬ旨を書きしるす喜寿を迎へた夜の食卓  
茨城県鹿嶋市 児矢野 雅恵
- 422 二回目のヘアドネーションしてきたと高校生は大人びたボブ  
茨城県鹿嶋市 児矢野 雅恵
- 423 孀恋の大地耕すトラクター キャベツ畑のはじから現わる  
群馬県榛東村 岸 和夫
- 424 キンキンに冷えた空裂く飛行機雲 育ちゆくのと解れゆくのと  
群馬県高崎市 松本 由美子
- 425 私と子犬の視線の交点が「出せ」と命じるオキシトシンを  
群馬県高崎市 松本 由美子
- 426 うっすらと幸が積もれば徐行するテールランプを篝火として  
東京都中央区 佐藤 直大
- 427 おしっこに「きれいな」という表現が加わり新たな家族のかたち  
東京都中央区 佐藤 直大

第八回若山牧水みなかみ紀行短歌大会作品集

令和7年(2025)3月発行

編集／発行 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

〒379 | 1305

群馬県利根郡みなかみ町後閑321 | 1

みなかみ町教育委員会 生涯学習課内

電話0278(25)5025

令和6年度若山牧水みなかみ紀行短歌大会補助事業

第8回若山牧水みなかみ紀行短歌大会

開催日 令和7年(2025)3月2日(日)

会場 みなかみ町カルチャーセンター

群馬県利根郡みなかみ町上牧 1735

主催 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

協力 みなかみ町牧水会

後援 みなかみ町・みなかみ町教育委員会・沼田エフエム放送株式会社・  
関東新聞販売(株)マイタウンたにがわ・(一財)三国路与謝野  
晶子紀行文学館・三成社株式会社

